

Ⅱ まちづくりアンケート

Ⅱ まちづくりアンケート

1 調査の概要

(1) 調査の目的

各種団体などの代表者のこれからの盛岡市のまちづくりや将来像などに関する意見を把握し、その結果を新しい盛岡市総合計画に反映させることを目的としています。

(2) 調査の設計

- ① 調査対象 盛岡市内で活動している各種団体や事業所のうち抽出された団体
 - ・教育・文化（学校、文化関係、協議会等）
 - ・経済・労働（金融機関、企業、農業関係、組合等）
 - ・医療・福祉（社会福祉施設、医療機関、保育園等）
 - ・ボランティア・NPO
 - ・町内会・自治会
 - ・報道機関 など
- ② 標本数 850 団体
- ③ 調査方法 無記名式の質問紙調査。郵送による配布・回収
- ④ 調査期間 平成 25 年 8 月 30 日から 9 月 20 日まで（集計対象 9 月 30 日）

(3) 調査の内容

設問	調査項目
問1	盛岡市の現況（優れているところ）
問2	盛岡市の現況（力を入れていくところ）
問3	盛岡市の将来像
問4	考慮すべき社会の動向
問5	まちづくりへの提言（記述式）

(4) 回収結果

対象者数	有効回収数	回収不能数	有効回収率
850 団体	534 団体	316 団体	62.8%

(5) 報告書の見方

- ① 比率(%)は、各設問の回答者数を基数として算出しています。
- ② 集計結果はすべて、小数点第2位を四捨五入しています。
- ③ 設問は全て複数回答を依頼していますので、比率の合計は100.0%を超えます。
- ④ 依頼回答数を超える回答など、設問の依頼形式に沿わない回答は無効としています。
- ⑤ 無回答・無効は合わせて不明として表示しています。
- ⑥ 前回調査比較の図表は、平成15年7月に実施したアンケート調査との比較です。
前回調査と今回の調査では、調査対象者数、回収率は異なりますが、設問内容は同様にしています。

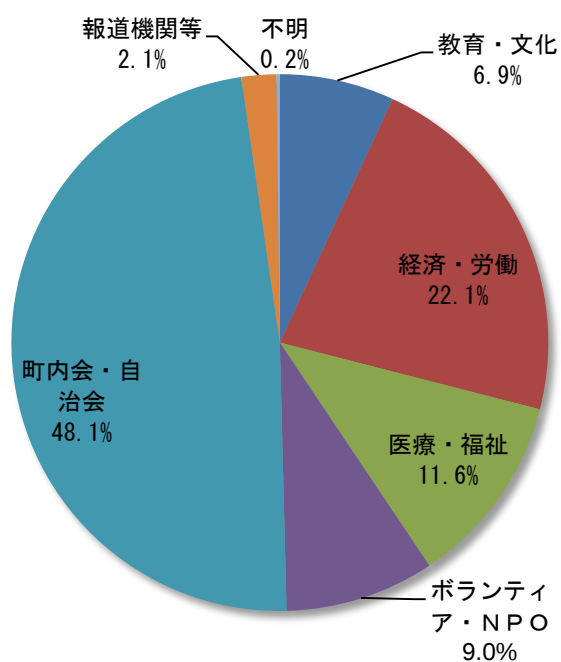
(参考 平成15年7月に実施したアンケート調査結果)

対象者数	有効回収率
962 団体	67.7%

2 調査回答者

分野

分野	回答者数 (団体)	構成比 (%)
教育・文化	37	6.9
経済・労働	118	22.1
医療・福祉	62	11.6
ボランティア・NPO	48	9.0
町内会・自治会	257	48.1
報道機関等	11	2.1
不明	1	0.2



3 調査結果

(1) 盛岡市の現況について（問1、2）

① 優れているところ

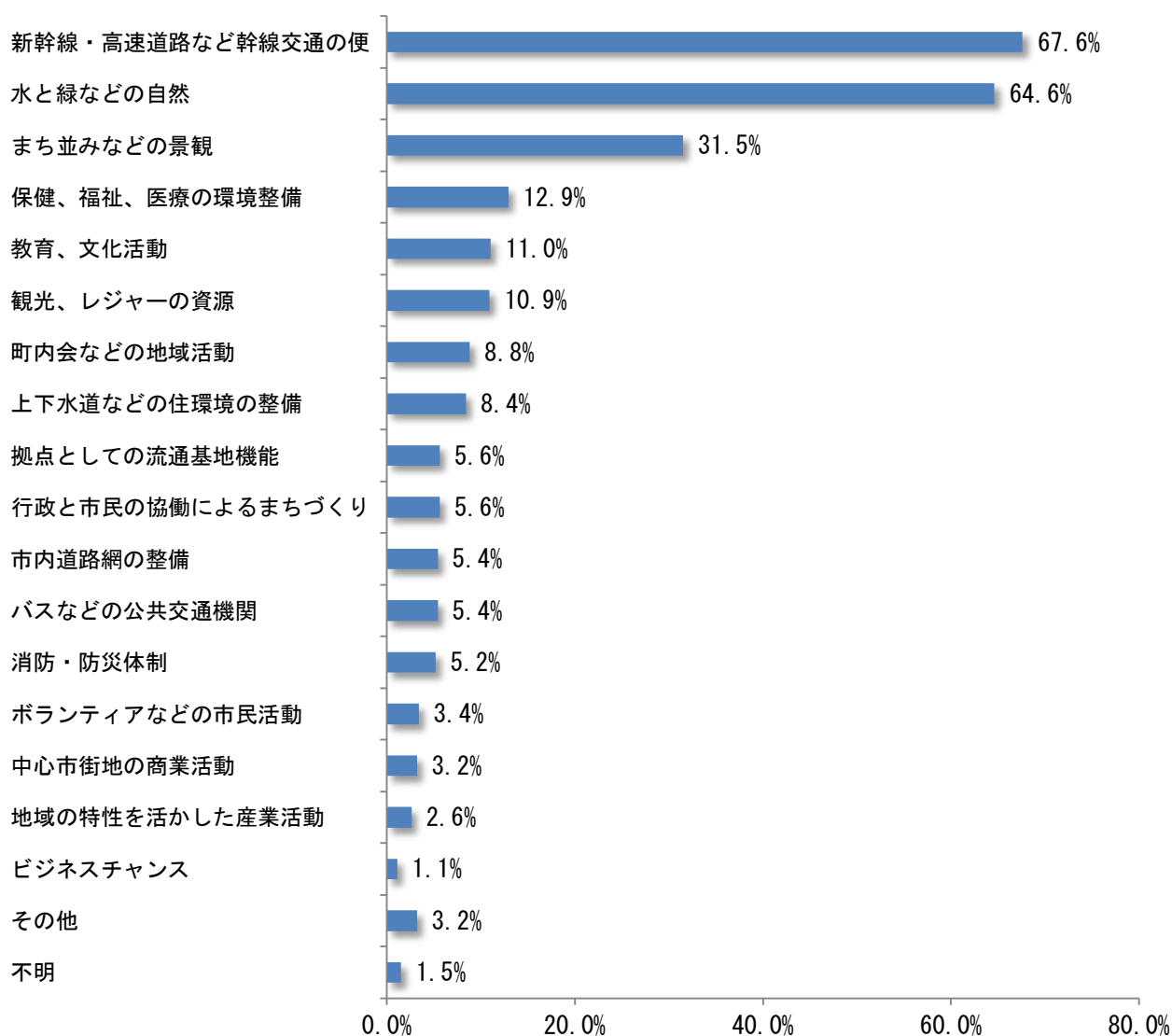
問1 東北の各都市と比較した場合、盛岡市が優れていると思われるところはどんな点ですか。次の中から3つ以内をお選びください。

●「新幹線・高速道路など幹線交通の便」が最も多い（67.6%）

・「新幹線・高速道路など幹線交通の便」を選んだ団体が最も多く、次いで「水と緑などの自然」、「まち並みなどの景観」となっています（図表Ⅱ-1）。

・前回調査と比較すると、上位3項目は、今回の調査でも多くの団体が選んでいますが、中でも「新幹線・高速道路など幹線交通の便」は、5.2%上昇し、67.6%と高い割合で選ばれています。東北新幹線が青森まで延伸されたことなどにより、交通の利便性が向上したことが考えられます（図表Ⅱ-2）。

（図表Ⅱ-1 優れているところ 回答者数 534団体）



(図表Ⅱ-2 優れているところ 前回調査比較)

	前回 (平成 15 年 7 月調査)		今回	
	選択肢名	割合 (%)	選択肢名	割合 (%)
1 位	水と緑などの自然	78.3	新幹線・高速道路など幹線交通の便	67.6
2 位	新幹線・高速道路など幹線交通の便	62.4	水と緑などの自然	64.6
3 位	まち並みなどの景観	35.0	まち並みなどの景観	31.5
4 位	上下水道などの住環境の整備	14.7	保健、福祉、医療の環境整備	12.9
5 位	教育、文化活動	12.6	教育、文化活動	11.0

■ 分野別の傾向 (図表Ⅱ-3)

- ・上位 3 項目は各分野で多くの団体が選んでいます。
- ・町内会・自治会では、他の団体と比べて「行政と市民の協働によるまちづくり」を選んだ割合が高くなっています。
- ・ボランティア・NPOでは、他の団体と比べて「ボランティアなどの市民活動」を選んだ割合が高くなっています。
- ・母数(回答数)は少なくなっていますが、報道機関等では、他の団体と比べて「バスなどの公共交通機関」を選んだ割合が高くなっています。

(図表Ⅱ-3 優れているところ 分野別)

	回答者数(団体)	単位 (%)																		
		新幹線・高速道路など幹線交通の便	水と緑などの自然	まち並みなどの景観	保健、福祉、医療の環境整備	教育、文化活動	観光、レジャーの資源	町内会などの地域活動	上下水道などの住環境の整備	拠点としての流通基地機能	行政と市民の協働によるまちづくり	市内道路網の整備	バスなどの公共交通機関	消防・防災体制	ボランティアなどの市民活動	中心市街地の商業活動	地域の特性を活かした産業活動	ビジネスチャンス	その他	不明
全体	534	67.6	64.6	31.5	12.9	11.0	10.9	8.8	8.4	5.6	5.6	5.4	5.4	5.2	3.4	3.2	2.6	1.1	3.2	1.5
教育・文化	37	70.3	70.3	40.5	5.4	16.2	16.2	8.1	2.7	5.4	5.4	0.0	0.0	2.7	5.4	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0
経済・労働	118	69.5	55.1	38.1	10.2	8.5	11.9	2.5	9.3	8.5	1.7	6.8	6.8	2.5	2.5	7.6	2.5	5.1	1.7	1.7
医療・福祉	62	64.5	71.0	41.9	9.7	9.7	12.9	6.5	1.6	1.6	3.2	8.1	6.5	3.2	0.0	1.6	1.6	0.0	3.2	1.6
ボランティア・NPO	48	56.3	70.8	31.3	16.7	14.6	10.4	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	4.2	2.1	16.7	0.0	4.2	0.0	4.2	4.2
町内会・自治会	257	68.9	65.8	23.7	16.0	11.3	9.3	14.0	11.3	5.8	8.9	5.8	5.1	7.8	1.9	1.9	3.1	0.0	4.3	1.2
報道機関等	11	72.7	63.6	54.5	0.0	9.1	9.1	0.0	9.1	9.1	0.0	0.0	18.2	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0

※ 1 全体数は、分野不明分を含んでいます。

※ 2 各分野の上位 3 項目のセルに色づけをしています。

② 力をいれていくところ

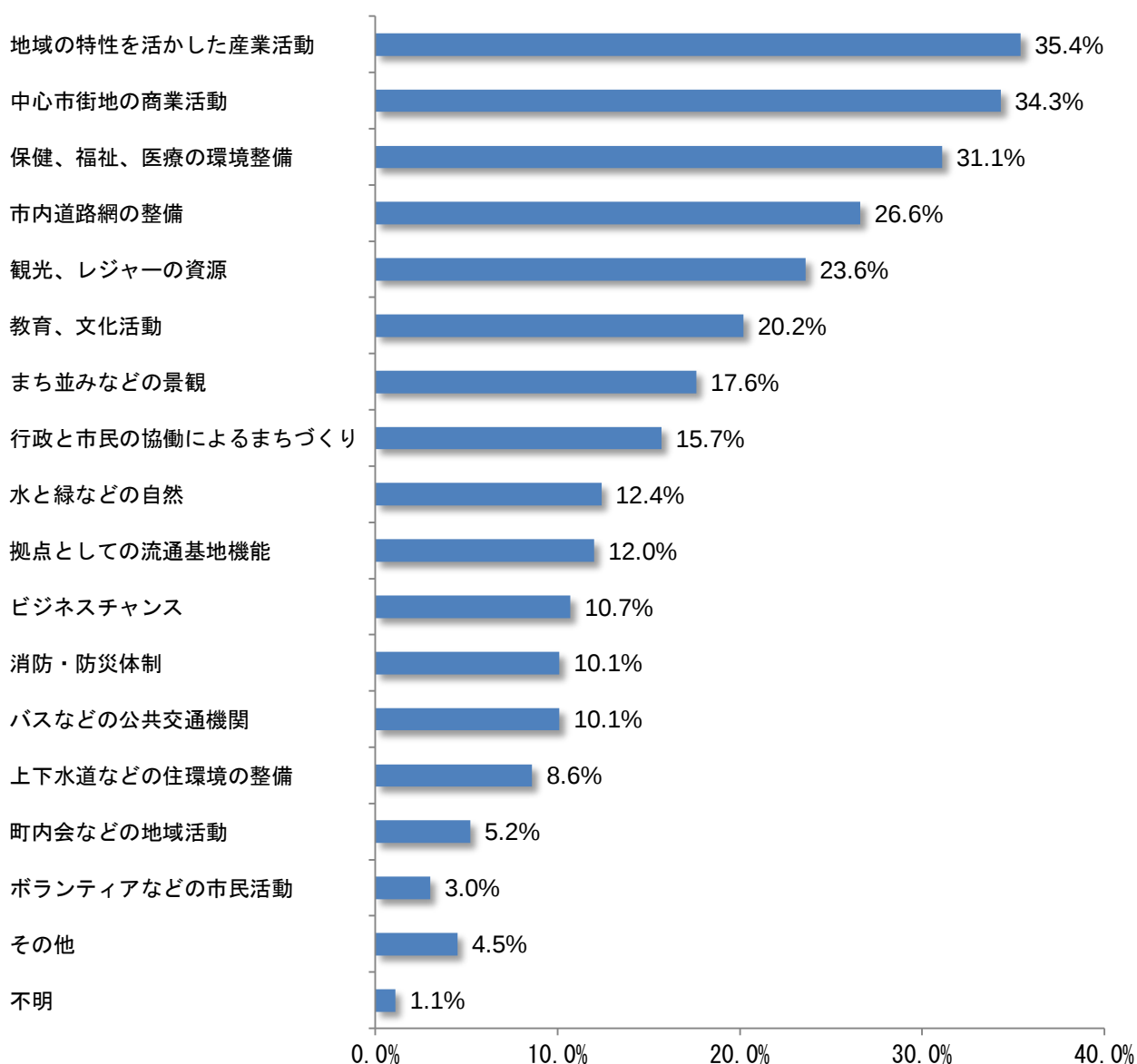
問2 それでは、盛岡市では今後どのようなことに力を入れていくべきだとお考えですか。次の中から3つ以内をお選びください。

●「地域の特性を活かした産業活動」が最も多い（35.4%）

・「地域の特性を活かした産業活動」を選んだ団体が最も多く、次いで「中心市街地の商業活動」、「保健、福祉、医療の環境整備」となっています（図表Ⅱ-4）。

・前回調査と比較すると、前回1位だった「市内道路網の整備」を選んだ割合が19.8%減少し、代わりに「地域の特性を活かした産業活動」、「中心市街地の商業活動」を選んだ割合が高くなっています。地域や中心市街地の活性化がより重要視されてきていることが分かります（図表Ⅱ-5）。

（図表Ⅱ-4 力をいれていくところ 回答者数 534 団体）



(図表Ⅱ-5 力をいれていくところ 前回調査比較)

	前回（平成15年7月調査）		今回	
	選択肢名	割合（％）	選択肢名	割合（％）
1位	市内道路網の整備	46.4	地域の特性を活かした産業活動	35.4
2位	保健、福祉、医療の環境整備	37.8	中心市街地の商業活動	34.3
3位	地域の特性を活かした産業活動	32.3	保健、福祉、医療の環境整備	31.1
4位	中心市街地の商業活動	27.3	市内道路網の整備	26.6
5位	教育、文化活動	24.9	観光、レジャーの資源	23.6

■ 分野別の傾向（図表Ⅱ-6）

- ・「地域の特性を活かした産業活動」、「中心市街地の商業活動」は、各分野で多くの団体を選んでいきます。
- ・医療・福祉、ボランティア・NPOでは、他の団体と比べて「保健、福祉、医療の環境整備」を選んだ割合が高くなっています。
- ・教育・文化では、他の団体と比べて「教育、文化活動」を選んだ割合が高くなっています。
- ・経済・労働では、他の団体と比べて「観光、レジャーの資源」を選んだ割合が高くなっています。
- ・母数（回答数）は少なくなっていますが、報道機関等では、他の団体と比べて「ビジネスチャンス」を選んだ割合が高くなっています。

(図表Ⅱ-6 力をいれていくところ 分野別)

	単位（％）																		
	回答数（団体）	地域の特性を活かした産業活動	中心市街地の商業活動	保健、福祉、医療の環境整備	市内道路網の整備	観光、レジャーの資源	教育、文化活動	まち並みなどの景観	行政と市民の協働によるまちづくり	水と緑などの自然	拠点としての流通基地機能	ビジネスチャンス	消防・防災体制	バスなどの公共交通機関	上下水道などの住環境の整備	町内会などの地域活動	ボランティアなどの市民活動	その他	不明
全体	534	35.4	34.3	31.1	26.6	23.6	20.2	17.6	15.7	12.4	12.0	10.7	10.1	10.1	8.6	5.2	3.0	4.5	1.1
教育・文化	37	43.2	37.8	24.3	21.6	24.3	37.8	24.3	8.1	13.5	10.8	13.5	2.7	8.1	0.0	0.0	2.7	8.1	0.0
経済・労働	118	36.4	39.8	16.9	20.3	37.3	21.2	21.2	11.9	9.3	12.7	20.3	7.6	7.6	5.1	0.8	0.8	3.4	1.7
医療・福祉	62	29.0	32.3	59.7	25.8	29.0	19.4	16.1	21.0	6.5	12.9	4.8	4.8	8.1	6.5	3.2	6.5	1.6	1.6
ボランティア・NPO	48	18.8	18.8	39.6	14.6	10.4	20.8	20.8	20.8	25.0	6.3	6.3	8.3	14.6	6.3	16.7	12.5	8.3	2.1
町内会・自治会	257	38.5	32.7	30.0	32.3	18.3	16.7	15.2	16.7	13.2	12.8	7.0	14.4	11.7	12.8	6.6	1.6	4.7	0.8
報道機関等	11	36.4	81.8	27.3	36.4	18.2	27.3	9.1	9.1	0.0	9.1	36.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※1 全体数は、分野不明分を含んでいます。

※2 各分野の上位3項目のセルに色づけをしています。

(2) 盛岡市の将来像について(問3)

問3 盛岡市が10年後、どのようなまちであってほしいと思いますか。次の中から2つ以内をお選びください。

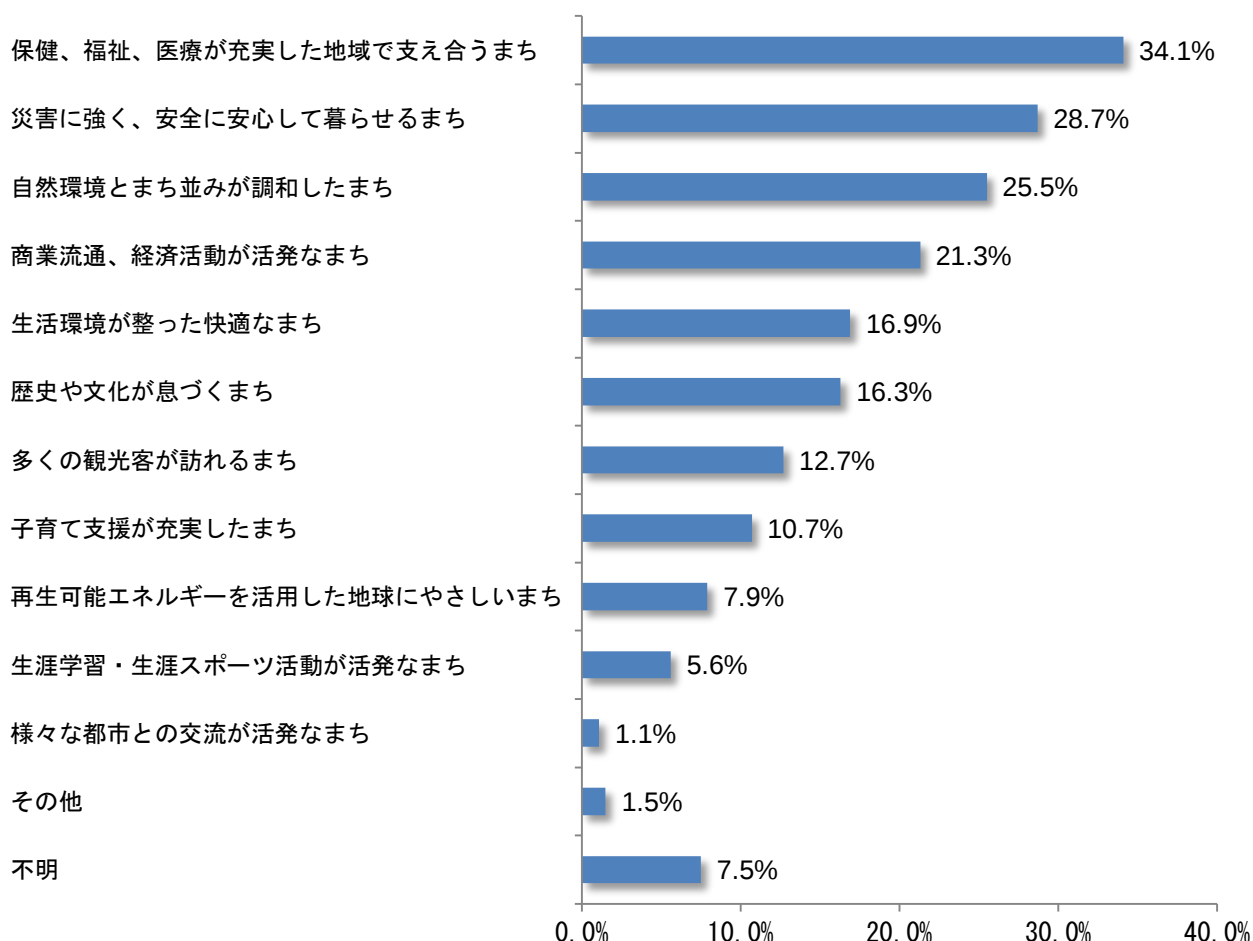
●「保健、福祉、医療が充実した地域で支え合うまち」が最も多い(34.1%)

・「保健、福祉、医療が充実した地域で支え合うまち」を選んだ団体が最も多く、次いで「災害に強く、安全に安心して暮らせるまち」、「自然環境とまち並みが調和したまち」となっています(図表Ⅱ-7)。

・前回調査と比較すると、「保健、福祉、医療が充実した地域で支え合うまち」、「自然環境とまち並みが調和したまち」は、今回の調査でも多くの団体が選んでいます。

・「災害に強く、安全に安心して暮らせるまち」は、今回の調査で新たに設定した選択肢ですが、28.7%と高い割合で選ばれており、東日本大震災や今年8月の大雨災害の影響が大きく影響していると考えられます(図表Ⅱ-8)。

(図表Ⅱ-7 盛岡市の将来像 回答者数 534 団体)



(図表Ⅱ-8 盛岡市の将来像 前回調査比較)

	前回 (平成 15 年 7 月調査)		今回	
	選択肢名	割合 (%)	選択肢名	割合 (%)
1 位	自然環境とまち並みが調和したまち	46.5	保健、福祉、医療が充実した地域で支え合うまち	34.1
2 位	保健、福祉、医療が充実した地域で支え合うまち	40.9	災害に強く、安全に安心して暮らせるまち	28.7
3 位	歴史や文化が息づくまち	37.0	自然環境とまち並みが調和したまち	25.5
4 位	生活環境が整った快適なまち	33.9	商業流通、経済活動が活発なまち	21.3
5 位	商業流通、経済活動が活発なまち	24.9	生活環境が整った快適なまち	16.9

■ 分野別の傾向 (図表Ⅱ-9)

- ・経済・労働では、他の団体と比べて「商業流通、経済活動が活発なまち」を選んだ割合が高くなっています。
- ・教育・文化、医療・福祉では、他の団体と比べて「災害に強く、安全に安心して暮らせるまち」を選んだ割合が低くなっています。

(図表Ⅱ-9 盛岡市の将来像 分野別)

	回答数(団体)	単位 (%)												
		保健、福祉、医療が充実した地域で支え合うまち	災害に強く、安全に安心して暮らせるまち	自然環境とまち並みが調和したまち	商業流通、経済活動が活発なまち	生活環境が整った快適なまち	歴史や文化が息づくまち	多くの観光客が訪れるまち	子育て支援が充実したまち	再生可能エネルギーを活用した地球にやさしいまち	生涯学習・生涯スポーツ活動が活発なまち	様々な都市との交流が活発なまち	その他	不明
全体	534	34.1	28.7	25.5	21.3	16.9	16.3	12.7	10.7	7.9	5.6	1.1	1.5	7.5
教育・文化	37	32.4	10.8	29.7	21.6	10.8	24.3	8.1	18.9	13.5	10.8	0.0	2.7	5.4
経済・労働	118	15.3	31.4	26.3	38.1	16.1	17.8	18.6	3.4	5.1	6.8	2.5	2.5	6.8
医療・福祉	62	62.9	17.7	24.2	16.1	19.4	9.7	8.1	22.6	6.5	1.6	0.0	1.6	4.8
ボランティア・NPO	48	43.8	33.3	29.2	8.3	14.6	16.7	6.3	10.4	10.4	6.3	2.1	4.2	4.2
町内会・自治会	257	34.6	31.5	23.7	17.5	18.3	15.6	12.5	8.9	8.6	5.4	0.8	0.4	9.7
報道機関等	11	27.3	27.3	36.4	18.2	9.1	27.3	27.3	27.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※ 1 全体数は、分野不明分を含んでいます。

※ 2 各分野の上位 3 項目のセルに色づけをしています。

(3) 考慮すべき社会の動向について（問4）

問4 盛岡の将来像を考える場合、最も考慮しなければならない社会の動向は何だとお考えですか。次の中から2つ以内をお選びください。

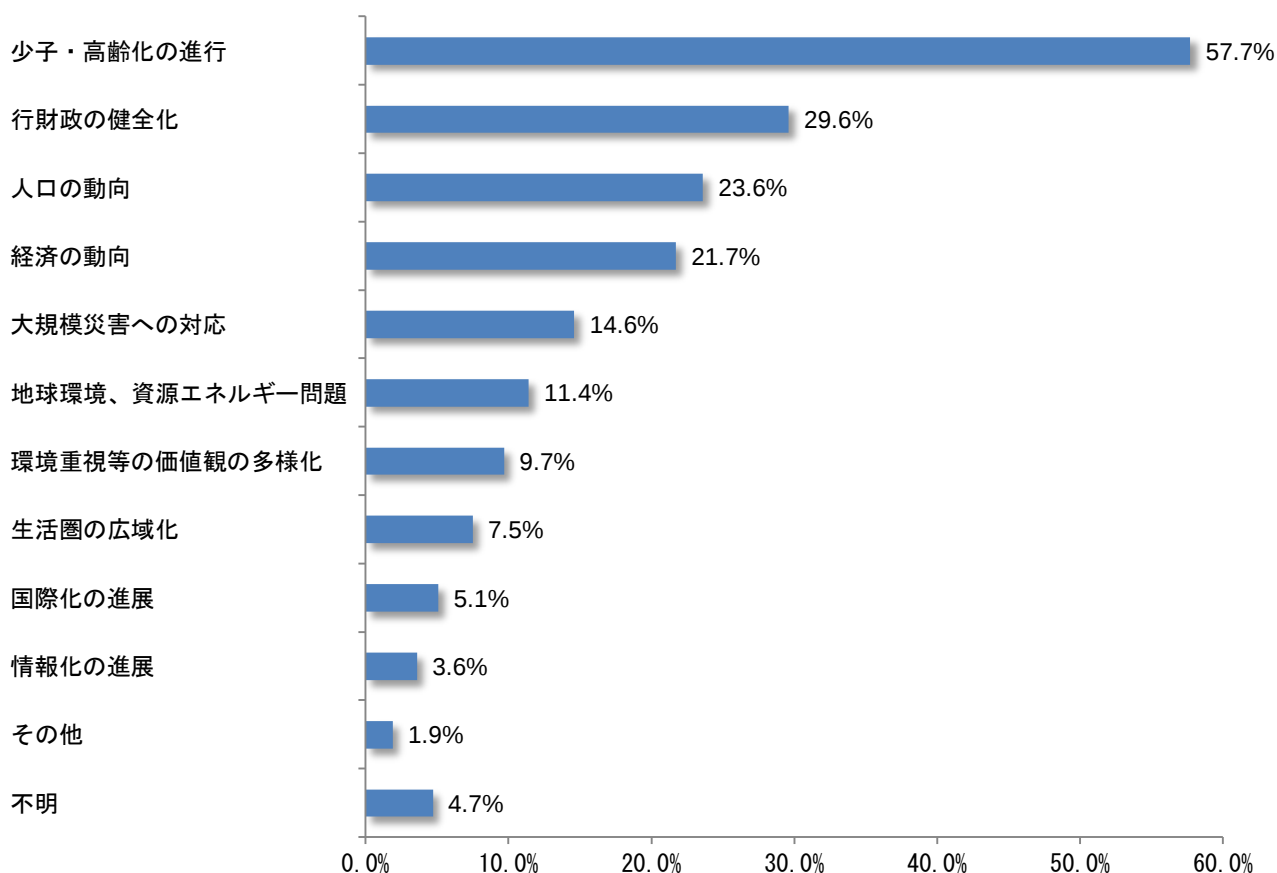
●「少子・高齢化の進行」が最も多い（57.7%）

・「少子・高齢化の進行」を選んだ団体が最も多く、次いで「行財政の健全化」、「人口の動向」となっています（図表Ⅱ-10）。

・前回調査と比較すると、上位項目は今回の調査でも上位となっていますが、「行財政の健全化」を選んだ割合が14.0%減少しており、平成16年度から6年間にわたり取り組んできた行財政構造改革の成果が要因の一つとして考えられます。

・一方で、「人口の動向」が11.2%上昇しています（図表Ⅱ-11）。

（図表Ⅱ-10 考慮すべき社会の動向 回答者数 534 団体）



(図表Ⅱ-11 考慮すべき社会の動向 前回調査比較)

	前回 (平成 15 年 7 月調査)		今回	
	選択肢名	割合 (%)	選択肢名	割合 (%)
1 位	少子・高齢化の進行	51.0	少子・高齢化の進行	57.7
2 位	行財政の健全化	43.6	行財政の健全化	29.6
3 位	経済の動向	28.3	人口の動向	23.6
4 位	生活圏の広域化	18.7	経済の動向	21.7
5 位	環境重視等の価値観の多様化	14.4	大規模災害への対応	14.6

■ 分野別の傾向 (図表Ⅱ-12)

- ・「少子・高齢化の進行」、「人口の動向」は、各分野で多くの団体が選んでいます。
- ・経済・労働、報道機関等では、他の団体と比べて「経済の動向」を選んだ割合が高くなっています。
- ・ボランティア・NPOでは、他の団体と比べて「環境重視等の価値観の多様化」、「地球環境・資源エネルギー問題」を選んだ割合が高くなっている一方で、「行財政の健全化」、「経済の動向」を選んだ割合が低くなっています。

(図表Ⅱ-12 考慮すべき社会の動向 分野別)

	回答数(団体)	単位 (%)											
		少子・高齢化の進行	行財政の健全化	人口の動向	経済の動向	大規模災害への対応	地球環境、資源エネルギー問題	環境重視等の価値観の多様化	生活圏の広域化	国際化の進展	情報化の進展	その他	不明
全体	534	57.7	29.6	23.6	21.7	14.6	11.4	9.7	7.5	5.1	3.6	1.9	4.7
教育・文化	37	51.4	29.7	27.0	27.0	8.1	16.2	13.5	0.0	0.0	2.7	0.0	8.1
経済・労働	118	46.6	22.0	29.7	34.7	19.5	6.8	5.1	9.3	6.8	5.9	0.0	3.4
医療・福祉	62	71.0	35.5	30.6	21.0	12.9	6.5	3.2	4.8	0.0	0.0	3.2	3.2
ボランティア・NPO	48	62.5	16.7	18.8	8.3	12.5	20.8	25.0	8.3	4.2	4.2	10.4	2.1
町内会・自治会	257	59.9	34.2	19.1	16.3	13.6	12.8	10.5	8.2	6.6	3.5	1.2	5.8
報道機関等	11	45.5	18.2	36.4	54.5	27.3	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0

※ 1 全体数は、分野不明分を含んでいます。

※ 2 各分野の上位 3 項目のセルに色づけをしています。

(4) まちづくりへの提言について(問5 記述式)

問5 市内外の人から「住み続けたい」、「訪れたい」、「住んでみたい」、「事業活動したい」などと思われるようなまちとなるには、どのような魅力を市内外にPRしていくべきだとお考えですか。自由に提言をお聞かせください。

① 提言件数

705件(回答数315団体)

提言の件数は複数回答の取扱いとしています。

② 提言の概要

提言の内容を整理するため、現在の盛岡市総合計画の施策の柱(8)と施策(41)ごとに分類したところ、以下のようになりました。

■ 施策の柱

「5 活力ある産業の振興」に関する提言が最も多く、次いで「7 快適な都市機能」、「1 いきいきとして安心できる暮らし」に関する提言が多くなっています。

施策の柱	件数(件)	割合(%)
1 いきいきとして安心できる暮らし	102	14.5
2 安全な暮らし	34	4.8
3 心がつながる相互理解	17	2.4
4 共に生き未来を創る教育・文化	65	9.2
5 活力ある産業の振興	161	22.8
6 環境との共生	79	11.2
7 快適な都市機能	158	22.4
8 信頼される質の高い行政	55	7.8
9 その他(市政関連、アンケートに関する意見など)	34	4.8
合 計	705	100.0

■ 施策

施策の柱	施策	件数(件)
1 いきいきとして 安心できる 暮らし	1 健やかに暮らせる健康づくりの推進	4
	2 地域をリードする医療体制の確立	34
	3 共に歩む障がい者福祉の実現	2
	4 高齢社会に適応した高齢者福祉の充実	19
	5 暮らしを支える制度の充実と自立支援	1
	6 みんなで支える子育て支援の展開	35
	7 ふれあいが広がる地域福祉の実現	7
	小 計	102
2 安全な 暮らし	1 自然災害対策の推進	32
	2 火災に強い消防体制の構築	0
	3 市民生活を守る安全対策の充実	2
	小 計	34

施策の柱	施策	件数（件）
3 相互理解 心が つなが る	1 元気な地域コミュニティ活動の推進	11
	2 人権を尊重する地域社会の形成	0
	3 多様な国際交流・地域間交流の推進	6
	4 快適な情報ネットワークの実現	0
	小 計	17
4 共に 教育・文 化を 創る	1 将来を担う次世代の育成	42
	2 いつでもどこでも学ぶことができる環境の構築	5
	3 生涯にわたり楽しめるスポーツ・レクリエーションライフの実現	10
	4 豊かな心を育む芸術文化活動の支援	0
	5 歴史を受け継ぐ文化遺産の保護・活用	8
	小 計	65
5 振興 活 力 あ る 産 業 の	1 活力ある農林業の振興	8
	2 まちに活力を与える工業の振興	11
	3 多様で活発な商業・サービス業の振興	34
	4 地域資源をいかした観光・物産の振興	66
	5 安定した雇用の創出と良好な労働環境の促進	42
	小 計	161
6 共 生 環 境 と の	1 生活環境の保全	5
	2 かけがえのない自然との共生	68
	3 地球環境への貢献	6
	小 計	79
7 快 適 な 都 市 機 能	1 適正な土地利用計画の推進	7
	2 魅力ある都市景観の形成	56
	3 快適な居住環境の実現	21
	4 うるおいのある公園・街路樹の確保	21
	5 いつでも信頼される上水道事業の推進	4
	6 健全な水環境・良好な水循環の創出	5
	7 にぎわいのある市街地の形成	7
	8 都市活動を支える交通環境の構築	37
	小 計	158
8 行 政 信 頼 さ れ る 質 の 高 い	1 健全な財政運営の実現	7
	2 計画的で効率的な行政運営の推進	6
	3 市民とともにつくる行政の実現	34
	4 市民の負託に応える組織の構築・人材の育成	4
	5 より便利な行政サービスの構築	1
	6 自治の確立を目指す取組みの強化	3
	小 計	55
9	その他（市政関連、アンケートに関する意見など）	34
合 計		705

■ 施策の柱ごとの主な内容

個々の提言については、「施策ごとの内容（P105～）」に掲載しています。

1 いきいきとして安心できる暮らし

医療体制の確立や子育て支援に関する提言が多くありました。医療体制の確立については、医療を充実させ、安心・安全なまちであることをPRしていくべきなどの提言がありました。子育て支援については、待機児童の問題に積極的に取り組み、若い世代が住みやすいまちとしてPRするべきなどの提言がありました。

2 安全な暮らし

自然災害対策に関する提言が多くありました。自然災害から生命財産を守る対策が最優先される安心・安全なまちとしてPRしていくべきなどの提言がありました。また、夜道が明るく、町ぐるみで安全パトロールがされている、全国で一番事故の無いまちをPRしていくべきなどの提言がありました。

3 心がつながる相互理解

コミュニティ活動に関する提言が多くありました。町内会などの地域活動がスムーズで人間関係が円満なまちづくりがなされていることをPRしていくべき、地域の活性化に向け、地域活動に若者が参加する施策を実施するべきなどの提言がありました。

4 共に生き未来を創る教育・文化

教育環境の充実や生涯スポーツの推進に関する提言が多くありました。教育環境の充実については、施設の充実を図るべき、教育水準の向上に取り組んだ上で、市内外へ発信していくべきなどの提言がありました。生涯スポーツの推進については、健康づくりができるような施設の整備やスタッフの配置、また、スポーツに気軽に参加できる環境があればよいなどの提言がありました。

5 活力ある産業の振興

観光・物産の振興や企業誘致・雇用に関する提言が多くありました。観光・物産の振興については、温かい心の触れ合う、市民が観光ガイドをするまちとしてPRしていくべきなどの提言がありました。企業誘致・雇用については、企業誘致を推進し、若者が働ける場を提供すべきなどの提言がありました。

6 環境との共生

自然との共生に関する提言が多くありました。自然と街並みが調和したまちをこれからも維持していけるよう、環境を考えたまちづくりをPRしていくべきなどの提言がありました。また、再生可能エネルギーを活用した地球に優しい技術の開発と実用化を図り、住みやすいまちにしていくべきなどの提言がありました。

7 快適な都市機能

景観形成や交通環境の整備に関する提言が多くありました。景観形成については、古き良き街並みを壊さずに整備し、暮らしやすいまちとしてPRしていくべきなどの提言がありました。交通環境の整備については、幹線交通の便がよいまちであることをPRしていくべき、他都市との差別化のため、LRTの検討も含め、電車やバスの利便性を高めていくべきなどの提言がありました。

8 信頼される質の高い行政

情報発信やまちづくりに関する提言が多くありました。情報発信については、各業界からPRのCMを募集し、それをタイムリーに発信すべきなどの提言がありました。まちづくりについては、地域協働に力を入れている地区も出てきているので、一層の公助を行っていくべき、地域の特色を生かした拠点づくりをし、市中心のみならず、市全体に活力のみなぎる均衡のあるまちづくりを進めるべきなどの提言がありました。

9 その他

盛岡の売りである優しく温かい人情をPRしていくべき、広域合併を再検討し、北東北の拠点づくりを行っていくべきなどの提言がありました。

■ 施策ごとと主な内容

- ・現在の盛岡市総合計画の施策ごとにまとめて掲載しています。
- ・施策番号に対応する施策名については、P101、102を参照してください。
- ・趣旨を変えない程度に要約したものもあります。
- ・同趣旨と思われ、割愛したものもあります。

●施策の柱 I いきいきとして安心できる暮らし

施策	内容
1	健康で長生きなまち。健康で美しいまち。 住んでいる人々が明るく元気なまち。 市民の健康診断の拡大を図る。
2	安心・安全に暮らせるよう地域に病院や警察署、介護施設などの配置がきちんとなっているのか見直してほしい。 少子高齢化が進むため、医療、行政関係の充実を要望する。 医療を充実させ、安心・安全なまちであることをPRする。 安全に安心して暮らせるまちづくりを行うことが最重要であり、平時の福祉・医療の充実を進めてほしい。 少子高齢化の進行を見据え、保健福祉医療の環境整備を前面に、住み続けたいまちづくりを推進してほしい。 「住みたい」と「訪れたい」は視点が異なる。前者は安心して子育てや居住できるということで、特に遅れているのは教育と医療である。質の高い教育や医療システムを望む。後者は観光的なことで現状でも満足できるものである。 医大病院移転に伴う高度医療の体制や救急医療の体制低下に対し、行政としてしっかり対応すべき。 医療福祉は「病気を未然に防ぐ」という、子どもから老人までの医療整備をすることにより、安心安全なまちの活性化につながる。 他地域から移り住んでいる市民の意見を吸い上げて、まちづくりや医療、福祉等の行政施策に活かしていく必要がある。 「今住んでいる市民がより快適に暮らせるまち」にしていくのが最も重要。保健・福祉・医療が充実し、盛岡に住む方々が口々に「暮らしやすいまちだ」と出てくるようなまちにしていけばよい。 盛南地区は、大学、医療、スポーツエリアとして発展させ、盛北・玉山地区は、啄木の文化的な魅力を掘り出し、姫神山麓の金山跡地の再現、登山道を作り、観光ルートを指定する。
3	障がい者も安心して住めるまちづくりを行い、PRする。 高齢者や障がい者福祉の充実を図るとともに、「ともに生きる」社会の具現化を行う（子どもとお年寄りや障がい者の共同の場を作る等）。
4	高齢者がいきいきして活動を行っているまちとしてPRする。 医療特区など、老人にも住みやすいまちづくりや福祉の充実したまちづくりを目指してほしい。 医学・福祉介護等の養成機関、高齢者が将来安心して住める老人福祉施設（低賃金）の増設が望まれる。 介護保険料が日本一少ないまちとしてPRする。

●施策の柱 I いきいきとして安心できる暮らし

施策	内容
4	地方の高齢化は避けられない，高齢者が安心して暮らせる生活環境づくりが市内外へのPRに繋がる。
	認知症高齢者の増加に伴う行政サイドの支援，少子化に伴う子育て支援が必要（高齢者と子育て中の若いご夫婦との交流等）。認知症について広く市民レベルでの周知の徹底を図り，民間頼りではなく行政として大局を見据えた取組が必要である。
	お年寄りが安心して暮らせるように誰でも入所できる施設など福祉行政に力を入れてもらいたい。
	老人福祉等で市独自の事業を展開し，全国に発信する。
	少子高齢化が進む中，空き家を活用して高齢者の集合住宅のような環境を作れたら素晴らしい。
	人口減少，少子高齢化の進行が続く中で，健康で元気な高齢者が社会（町内会等）で活躍できる場の拡大の必要性を提案する。
	高齢化社会に向けて，先進諸国を参考に，人生の最後を支える社会の仕組みづくりをする。
	公共の老人ホームの拡充を図る。安心して老後を迎えられるまちとしてPRする。
	年代に偏らない施策が必要。高齢者には安寧，若者には仕事を。そのためにバリアフリーのまちづくりを進めること，保健福祉の充実，起業家や小規模事業者向けの税制や不動産面への優遇措置を講じてビジネスのしやすい環境を整えることが必要である。元気に活躍する現役世代を増やすことこそ若年層への好影響を与える施策。
5	住み続けたいと思われるためには，高齢化に伴うハード事業，ソフト事業両面の充実と高齢者にやさしい（生活しやすい）まちであること。
	中心市街地の商業活動を充実させ，生活弱者が暮らしやすいまちづくりが必要。
	住宅改修への補助や子育て環境の整備（保健所の支所・保育所や幼稚園の受け入れ・子どもの遊び場を増やす）等，高齢化地域や空き家の多い地域に若い人が定住してくれるような施策が必要。入りやすい商店を作る努力をし，歩くだけでも楽しい大通りを目指す。
	子どもたち，高齢者の方々が住みやすいまちづくり。そのために，子どもや高齢者に携わる若者達が意欲的に毎日を過ごせるように行政面でのバックアップ（労働条件や環境の整備）が重要。子育てをしやすい環境や保育，教育，福祉の充実を図る。
	子どもを産み育てやすいまちを実感できるよう，具体策を市の取組課題にし，全国に発信する。
	市独自の事業を展開し，全国に発信する。
	安全で安心して子育てできる環境をPRする。
	子育てをしやすいかどうかは「住みたい」と考える大きな要素となるので，女性が働き続けられる，新たな労働力を確保するためにも保育所の整備が必要である。
	待機児童の問題に積極的に取り組み「若い世代が住みやすいまち」としてPRする。
6	待機児童が無くなるよう，保育園の増加など福祉行政に力を入れ，子どもを産み育てたくなる環境整備が必要。
	高齢化の進展に伴い，家庭内の就業者数が減少することを踏まえると，共稼ぎ家庭が増加する。子育て時期に失業する事のないよう，保育施設，施策の充実を図り，安心して就業できる環境をPRするべき。

●施策の柱 | いきいきとして安心できる暮らし

施策	内容
6	子どもの声が聞こえる地域は活気を感じ、鳥の声が聞こえる地域は癒される。
	少子高齢化の中で、子育てしやすい保育環境整備が望まれる。保育料が安く、安心して働ける環境づくりが必要。
	若い世代へのアプローチの為に、行政が主体となり、思い切った子育てプランと産業のタイアップが必要である。今後は盛岡の利便性が仙台を上回り、東北の産業の中心地となる。沿岸との交通網の整備にも力を入れ、活性化すれば人口流出も防ぐことができる。産業が根付けば、安心して子どもを産み育てていけるという安心感が「子育てにやさしいまち」となる。
	子どもたち、若者たちの元気や活気の波及効果は絶大で、地域活性化の一番の基。将来に夢と希望を見出し、安心して家庭を築く環境づくりが急務。そのような環境が整備されていることで魅力あるまちとしてPRしていけるのではないかな。
	若い人達が住みたいまちにしていく事が重要。子育て支援策を強め、安心して産み育てることができる環境作りをしてほしい。出産費用の援助、保育所の増設、保育料の軽減など「子育ては盛岡で」といわれる環境にしていく。
	子どもの医療費助成制度の拡充。未だ「就学前」までとなっている年齢制限の見直しを図り対象年齢を拡大することにより、子育てに優しい環境であることをPRする。盛岡市は県都として他市町村の手本となるよう、先駆けて取組む姿勢を示してほしい。
7	子育て、教育、就業と一貫して住みやすく、生活しやすいまちづくりが必要。子育て世代が働きながら暮らしていけることが盛岡市の税収を支え、郷土の発展に重要な役割を果たすと考える。盛岡で生まれ育った子どもがやがて盛岡で生活し、子育てをし、そのまた子どもたちが盛岡をつくっていく。そんなまちづくりを目指してほしい。
	福祉の分野では災害時に地域の人が力を合わせられるように「結」の精神を意識づけること。自然環境に恵まれ、隣人同士に助け合いがある明るい盛岡市をPR。
	文化的な活動や福祉ボランティアについて、情報発信の支援と援助を行う。
	環境、災害、福祉どれをとっても自身が関心を持たなければならない。近隣同士が助け合いを深め、関心と勇気をもってお手伝いをする、弱者が住みやすい、そんな地域が素晴らしい。防災は「自分の体、財産は自分で守る」を基本に。行政は文化、教育を重要課題とし、自治会等で良さを話していただきたい。
	町内活動や地域ボランティアは年寄りまかせ。若年層は、感謝の心や思いやりの心がなく、無関心である。地域防災の話があるが、具体性の無い形式ばかりの話では意味が無い。災害はハード面だけでは防止できず、心の通った地域活動のほうがやはり盛岡に住んでよかったと思うことになると思う。
	福祉活動支援は必要なことに重点的配分を。

●施策の柱 II 安全な暮らし

施策	内容
1	生活環境に恵まれた暮らしやすいまち，自然災害の少ないまちとしてPRする。
	ダム決壊のハザードマップを作り，市民に安心安全を提供すべき。
	安全に安心して暮らせるまちづくりを行うことが最重要である。そのために，災害時の対応強化や平時の福祉・医療の充実を進めてほしい。
	震災後の安全性をもっとアピールしたほうが良い。
	自然災害から生命財産を守る対策が最優先される安心・安全なまちとしてPRする。
	生活の基盤は安全安心なまちであり，自然災害のないまちづくりである。洪水対策と避難情報徹底のルール作りが必要。
	町内会などの地域活動や消防・防災の充実，保健福祉医療の環境整備，教育文化活動，これらの推進とPRを行う。
	環境，災害，福祉どれをとっても自身が関心を持たなければならない。近隣同士が助け合いを深め，関心と勇気をもってお手伝いをする，弱者が住みやすい，そんな地域が素晴らしい。防災は「自分の体，財産は自分で守る」を基本に。行政は文化，教育を重要課題とし，自治会等で良さを話していただきたい。
	町内活動や地域ボランティアは年寄まかせ。若年層は，感謝の心や思いやりの心がなく，無関心である。地域防災の話があるが，具体性の無い形式ばかりの話では意味が無い。災害はハード面だけでは防止できず，心の通った地域活動のほうがやはり盛岡に住んでよかったと思うことになると思う。
	都市部に防災無線が設備されていないのは問題である。緊急時を考慮し，早急に設備することを希望する。
2	
3	道路標識が適切に配置され，夜道が明るく，町ぐるみで安全パトロールがされている，全国で一番事故の無いまちである等，「安全・安心のまち」であることをPRする。

●施策の柱 III 心がつながる相互理解

施策	内容
1	町内会自治会は、補助（金）制度を含めてもっと自主的に活動させたほうがよい。
	自然に恵まれ、安全で住みよいまち、町内会などの地域活動がスムーズで人間関係が円満なまちづくりがなされているまちであることをPRする。
	子どもたちが将来地元に戻りたいと思えるよう地域活動や祭り等、様々な機会を通し、子どもたちの参画を積極的に図る。
	地域の中心は高齢者が多く、活性化されないのではないか、行政として再考を望む。地域活動に若者が参加する施策が必要。
	町内会で町の特徴を生かし、長期に渡って楽しく落ち着いたものを考えていく。これらこれから生活する人たちが努力していくこと。
	地域社会（町内会）の重要性を認識し、市民への理解を求める広報を行うことにより、社会（現場）の問題点を見極め行動すること。
	各地域の自治会ごとに絆を深め、ツーカーの思いやりの心で生活できる場所にしたい（集会所ごとにサロンを根付かせる等）。
	人情豊かな町内会、自治会活動の盛んなまちの推進。
	町内会長の役割が重い。全くの無償。他の県や市町村はどうなのか。
	地域（町内会）の輪が大事で「地域を育てる」ことが大切と思われる。自然環境は良い、交通網がある程度は良いとなれば、後は人間育成である。行政がリーダー（中心）となり、地域のまちづくりのリーダーの育成を推進していくべき。
2	福祉推進会の町内会区域が、市民の生活実態と合っていない。新市街地の開発、幹線道路は整備されたので、生活実態に合った地区に見直すべき。現代は、負担や痛みの分配をどうするのか、財政再建が主題ではないのか。
3	宮沢賢治、石川啄木の観光コース化（周辺市町村と一体で）。
	ILCが国際決定されれば、盛岡市はいち早く「国際教育都市」を目指し、国内外に宣言、行動すべき。市役所内に産学官合同の「国際教育都市準備室」を設けることを提案。
	北東北3県連携の強化を図る。
	東日本大震災復興に向けた宮城、福島、岩手の相互連携が必要。
4	

●施策の柱 IV 共に生き未来を創る教育・文化

施策	内容
1	教育はその年齢に応じた学習が必要であり、基礎力の充実のほか、人として必要なこと、一人ひとりを大切にすることなど、広く人材育成を考えたものであってほしい。
	文化の香りや教養が感じられるまちとしてPRする。
	外からの人々を受け入れる教養・知性・言語力を身につける。
	魅力あるまちづくりはそこに住んでいる人々の意識の高さが重要。子どもたちに知識編重ではない充実した教育を。景観・文化・住環境の美とともに盛岡のソフトパワー、人材をアピールしてほしい。
	市民の教養を培養する施策も必要。盛岡のよさや幸せのカタチを住民参画型のワークショップで議論してもよい。
	教育文化が遅れている。海外に向けた教育も必要。
	教育施設の充実が望まれる。
	文化と教育のまちとしてPRする。
	盛岡市の住民自身が安心して暮らせると思えるまちにし、住民一人ひとりが自分の役割のなかで自分のできることを行う。各々が、その様子を盛岡市外の方に手紙やメール等で伝えることが重要。そこで、子ども達が読書をする時間を増やし、歴史、文学等に親しんでもらうための工夫が必要となる。
	目先の幸を追求せず将来子孫のための盛岡をつくりたい。人づくりに重点をおいた施策を望む。
	「人（人間力）」を育てることが大事。そこに住む人一人ひとりに魅力があれば、教育、文化、経済全てにおいて発展していくものと思われる。
	次世代を担う若者や女性にとって魅力あるまちとすることが大事である。教育、文化、介護、福祉医療を充実させることが第一であり、それに続いて日常に活気があふれる盛岡市を形作っていったら。そういった問題の検討の際には我々が魅力的だと感じている他都市を参考にしたり、他県から盛岡に流入してきた人たちや、若者や女性の意見を聞く機会を多く設定するとよいと思う。
	自立した社会人を育て、市民としてよりよい社会をつくり、仕事に挑戦する力をつけるため、人間教育に重点をおく。
	広域的観点から、交通の拠点としての利便、教育や文化水準の高さ、自然環境を前面に出し、「人間らしく落ち着いた心穏やかな生活ができるまち」としての魅力をPR。
	まちはそこに住む人の意識以上にはよくなる。盛岡在住者がそれぞれまちづくりを考え、固定観念に囚われることなくフレキシブルな発想とダイナミックな行動によって実践していく事が大切。そういった人材が増加していくことによりまちは活性化し、自然な流れで魅力的なまちに変わっていく。盛岡市のやるべきことはまさに「人づくり」である。
	「住みたい」と「訪れたい」は視点が異なる。前者は安心して子育てや居住できるということで、特に遅れているのは教育と医療である。質の高い教育や医療システムを望む。後者は観光的なことでも現状でも満足できるものである。
	恵まれた自然環境を活用し、子どもを育てやすい文教都市を目指すこと。
	歴史や先人、まち並みをPRする。
	教育のレベルアップが必要。教育への重点配分化。
	人材を多く生んだまち・歴史伝統文化を重んじるまち・中心市街地が活性化するまち（中心市街地に人が集まるようなまち）・教育や文化の水準が高いまちとしてPR。

●施策の柱 IV 共に生き未来を創る教育・文化

施策	内容
1	子育ての可能性（夢）が広がるまちとして、学力対策や全国にアピールできる文教施設が実績を上げるような助成や誘致を行い、IT産業や先端産業が起業できるような優遇施策等を検討すること。
	教育文化都市としてのPR不足。
	盛岡市民の人間性をPRするために、教育に力を入れる必要がある。「おもてなし」が大きく・継続的になり、市内外にアピールできると良い。人は人の中で癒されるのが一番大切。事業活動をするにも、人材資源の多いところは定着する。
	小中学校の教育環境が遅れている。学校整備に必要なお金をかけるべき。
	教育水準の向上に取り組んだ上で、市内外へ発信していく。
	小学校の自炊方式は盛岡の誇れる施策、他都市にもPRできるもの。地元産を使った学校給食を充実させ、継続して行ってほしい。
2	高齢者が安心して楽しく過ごせる生涯学習や生涯スポーツが普通に行えるまちづくりや、地域に根付いた環境が備わった場所が必要である。
	大人も子どももきちんと挨拶ができる環境が整うことにより、「あたたかい盛岡に住みたい」「訪れたい」「住んでみたい」「事業活動したい」と思っていただけではないか。
	思いやり、支えあいの心を持つ人間性と協調性のある人間育成、生涯学習の推進。
3	盛岡市は各種施設が中途半端な小さいものばかりなので、隣県から利用申込が受けられる施設として交流が活発となるような施設をつくってはどうか。
	周辺町村との合併を促進し、大きなスポーツ大会が開催できる施設を作してほしい。スポーツ、文化、北東北でビッグなイベントのできる地域の拠点としての盛岡市でありたい。
	国民体育大会が盛岡市を国内に発信する機会となるような施策が必要である。盛岡市が一体感をもてるような取組を期待する。
	ふれあいランドのような気軽に運動できる所がもっとあると良い。
	公共体育、スポーツ施設を充実させ、生涯スポーツが活発なまちとしてPRする。
	「数十年後を見据えたまちづくり」のために、現在の問題点に取り組むとともに、数十年後の盛岡を考え、今から取り組んでいくことが望ましい。特に健康面であり、今から子どもたちに楽しい運動を提供し運動習慣を身につけ、生涯健康に暮らすことを目指す。
	新しい市営野球場の整備を次期総合計画に入れてもらいたい。
	総合運動公園や安価の宿泊棟を整備し、生涯スポーツ等に気軽に参加し、健康づくりが出来るような施設やスタッフがいたらよい。
4	盛南地区は、大学、医療、スポーツエリアとして発展させ、盛北・玉山地区は、啄木の文化的な魅力を掘り出し、姫神山麓の金山跡地の再現、登山道を作り、観光ルートを指定する。
5	城跡公園、銅像の台座、啄木の歌碑等、活かせる物は活かしてほしい。まだ掘り起こせるものも沢山ある。
	歴史と文化を大切に、眠っている資源（観光資源）を掘り起こそう。人を呼び込む活動をもっと活発に、宣伝活動が必要である。

●施策の柱 IV 共に生き未来を創る教育・文化

施策	内容
5	市中心部のよさ（歴史，自然，経済活動が調和したまち）を守り続けること。
	生活に深みを与えているのは，人間関係や土地特有の歴史文化である。人とのふれあい，文化に根ざした市として，盛岡をベッドタウン化させてはならない。
	盛岡市は自然に恵まれ歴史文化が息づく都市であること。北東北３県との観光産業の協力発展に努めること。
	史跡等が市街地内に大切に保存されていて見所が多いこと，公共施設（博物館，美術館，アイスアリーナ，武道館等）が充実していることをPR。
	今ある観光資源を観光客が満足できるように保存，復元して充実を図る。

●施策の柱 V 活力ある産業の振興

施策	内容
1	若年人口が流失しないように、農林畜産育成機関、零細企業（技術者養成）エリアの設立。
	素敵なまちづくりと希望を持てる農業振興にもっと力を注ぐべきである。太田は農業振興地域に位置づけているが、地価が安いので、土地を担保に農業施設に投資したくとも出来ない状態なので、市民が安い土地を買って住宅を建て、住める地域とし、理想の地域づくりのモデルにしてほしい。
	第1次産業の後継者を育てていく工夫も必要である。
	豊かな自然環境を活かしたまちづくりと、農林業を核とした産業の育成で事業活動をしたいまちに。
	地域農業（地産農業）の維持の為に、生産したものを直接市民が手に入れられる「市」を促進し、健康的で安心できる食生活の充実をPRする。
	耕作放棄地増加を感じるので、もっとこれを上手に活用する手段（貸農園でコミュニケーション、レクリエーション等）について、皆で考えていく必要がある。
	産業に指導力を持ってほしい（特に農林業従事者への指導と支援）。
2	ILCが国際決定されれば、盛岡市はいち早く「国際教育都市」を目指し、国内外に宣言、行動すべき。市役所内に産学官合同の「国際教育都市準備室」を設けることを提案。
	他との差別化が顕著な産業活動があれば、元気な盛岡になる。老人のための産業等、少しでも財政が上向き方法を考えなければならない。
	地元の人誇りに思える商品、産業、サービスなどの開発・PRをしていく。口コミでそれらを広めることができればそれを目当てに来客が増え、地元自信を持つ人が増える。そうすると若者の就業率も上がると思う。
	自然環境と生活圏の調和の取れた市を目指し、第3、4世代を呼び込めるような地域の特性を活かした産業育成が必要。
	企業としては経済情勢の活発化、躍動を求め、また居住する市民にとっては安らぎを求めるものと思われる。「躍動と安らぎの融合を求めたまちづくり」を期待する。
	子育ての可能性（夢）が広がるまちとして、学力対策や全国にアピールできる文教施設が実績を上げるよう助成や誘致を行い、IT産業や先端産業が起業できるような優遇施策等を検討すること。
	研究開発分野や工業、化学系に進む子どもたちの職場が無い為、優れた人材が流出している。二次産業も環境を壊さないよう導入してほしい。
3	若い世代へのアプローチの為に、行政が主体となり、思い切った子育てプランと産業のタイアップが必要である。今後は盛岡の利便性が仙台を上回り、東北の産業の中心地となる。沿岸との交通網の整備にも力を入れ、活性化すれば人口流出も防ぐことができる。産業が根付けば、安心して子どもを産み育てていける安心感が、「子育てにやさしいまち」となる。
	ビジネス環境の整備に取り組んだ上、市内外へ発信していく。
	大型スーパー規制、地元商店街の復興。
3	入りやすい商店を作る努力をし、歩くだけでも楽しい大通りを目指す。
	街中や商店街は活気がなく、人通りも少ない。大型店のみならず近くにちょっとした商店があるようにする。

●施策の柱 V 活力ある産業の振興

施策	内容
3	人口減少を迎える中、バランスのとれた効率を考えたまちづくりが必要であると同時に、地域間格差の問題がある。松園・玉山地区の人口減少、盛南地区の人口増加による「南高北低」の形になっており、中心市街地の活性化が急務である。
	大通り商店街に無料駐車場を確保し、土日は歩行者天国に。
	工業都市を志向する必要はなく、盛岡市らしくエリア（文化・教育圏、商業圏、生活をする静かなまち等）を作り、まちづくりを進めてほしい。
	商店主が思い切って魅力ある商いができるよう、商業地域に行政がもっと助成してほしい。
	中心市街地に若者が集まるまちは将来的にも強い。公共交通機関が有機的に機能していくまちをつくってほしい。
	郊外ばかりが発展し、繁華街に人が集まらないのでは意味が無い。もっと中心地に魅力を持たせるようにしてほしい。
	たて型の建物、大型店舗の増加により風通しが悪く、冬は道路の凍結がひどくて歩くのが大変。個人の店はシャッターが閉まっている。今の市内が徐々に住みにくく自然を失っているように思える。今の市内に魅力があるか、もう一度原点にかえて考えるべき。
	若い世代の人たちが希望を持てるよう、市内中心部に無料の駐車場を作り、商店街に沢山の人が行き交い、賑やかで活気あるまちづくりをしてPR。
	自然環境の豊かさと経済的・商業的發展が共存できるのが盛岡市の魅力だと思う。
	経済活動が活発で、住みやすい、人に優しい自然豊かなまちとしてPRする。
	大通りに「入ってみたい」と思わせる魅力がほしい。ベンチがあったり、物売るだけの人とのつながりより、商売のゆとり、コミュニティがほしい。
	中心市街地の利便性を生かし、市民が集えるまちづくりを希望。
	中心市街地の商業活動を充実させ、生活弱者が暮らしやすいまちづくりが必要。
	盛岡中心街の活性化を図り、地元商店による経済活動ができるようにしなければならない。また、北東北の流通拠点としての整備と産業の活性化が必要。
	市中心部のよさ（歴史、自然、経済活動が調和したまち）を守り続けること、大型ショッピングセンター進出で中心部の活動を衰退させないように努力することが大切である。
	多くの町内で空き家、商店の閉鎖が増えている。それらの活用の方策も大切。
	街の中は、道路を広くし無料駐車場があると良い。大型店は高齢では行けず、不便である。大通りの活性化が必要。郊外より街に入るバスは駐車場を増やし、様々な所から乗り降りできるようにしてほしい。
	第3次産業従事者が多いので、各団体等の全国大会の誘致やその為のインフラ整備が必要。また、市街区域のバスルートの再考や盛南地区以外の人口減少、再利用の検討等、課題も多々あるので近郊の町村へ企業が流れないようなまちづくりを期待。
	年代層に応じた接客にも配慮し、その時代を醸成する人々を学び、見識を備えた接客を重ねることが肝要である。堅実、地道なもりおか人であった活動、地域を支えて働く人々のこと、地を活かした商いを。
	市内商店街（特に大通り）の活性化を。表通りに飲食店（主としてアルコール提供店）が多く存在するまちでは、市の言う「歴史と文化の息づくまち」にはふさわしくない。

●施策の柱 V 活力ある産業の振興

施策	内容
3	郊外と中心街との住み分けをもっと大胆にすべき。この際、市役所は郊外に。大通りは、歓楽街と教育文化施設の共存を考え、歓楽業界には条例を作って規制し、リフト面では地元の産業を後押しするルールや条例（食材や飲料、物産を半ば強制的に使わせる条例や税の優遇等）を考えることが必要。今の盛岡には、外貨や人の交流が必要であり、そのための経済の力が最重要である。
	中心市街地の商業活動の活性化を図り、郊外地の商業活動との調和を進める。
	大通りや肴町等商店街を全天候型の大規模モールに（商店の更なる集約化と広大な駐車場確保）。
	盛岡駅～盛岡城ラインが盛岡市の顔と言えらると思うが、盛南開発が進んでゆくにつれ賑わいがなくなっていると思う。
	活動の中心が周辺部に移り、中心部に住む住民にとって（特に交通手段の無い住民にとって）住みづらいまちになっていくと思う。
4	食文化、観光の拠点としての盛岡の充実をPRし、宿泊する形の観光を目指したい。
	数多くの史跡や寺院をガイドブックによって巡るコースを作り、盛岡を回遊できることをPRする。
	温かい心の触れ合う、市民が観光ガイドをするまち。
	ガイドによる効果的なPR、口伝えを行う。仏跡や産業、県立博物館等は発着できて行きやすいことが大切。先人記念館や子ども科学館など区切らずに、バスでの移動がスムーズに行けたら便利。
	盛岡広域圏の観光資源をPRする。
	歴史文化を大切に、行政主体ではなく民間の力を大きく利用すれば、観光面で伸びていく。
	盛岡には「あれ」があるから毎年行きたいという、市民サイドに立った年行事がほしい。
	観光マップや案内人等、旅行者に知らせるものがほしい。
	中心街活性化の点から「手作り村」のように盛岡の特徴を活かした老若男女が集える「人の集う仕掛け」を創意工夫し展開する。イベントもさんさ踊りや地域の芸能も催す等、集客企画も膨らむのでは。商業の場として工業地域の方々を集客し、活性化に繋げる工夫も必要。
	冬期間にイベントを行い、観光の集客力アップを図る。
	新たな観光資源の創造。観光イベントの工夫。盛岡市シンボルの確立。
	他県から訪れる方がまた訪れたいような観光スポットを作り、歴史文化のある土地をPRし、他県の方が予備知識をもって訪れてもらえるようにしてほしい。そういったものが市内に多数あり、公共交通機関を利用して観光できればよい。食に関しても三大麺の他に夕食に適した名物があればよい。
	市内だけではなく小岩井、八幡平周辺もあわせた広域の観光PRを、交通の利便性とあわせて全国、海外に行っていくべき。
	観光については、駅構内に観光案内所を設けてほしい。事業活動については、駅前で安価な事務所の貸し出しを行い、交通手段については、城跡や博物館、旧中心街等が散在しているので広島や熊本のように路面電車を走らせて移動しやすくする。
	他県の人に何かひとつアピールできるようなものに取り組んでほしい。

●施策の柱 V 活力ある産業の振興

施策	内容
4	平泉時代からの歴史文化を発信した観光振興を行い、自然景観を重視した拠点づくりとPR強化を図る。
	盛岡市は城下町のなごりと自然の調和がうまくとれたまちだが、道路が狭く、わかりにくいまちでもある。観光客が目的地にわかりやすく間違えることなく行ける事が大事である。病院内部のように各種の色の線で目的地まで行ける様にできればよい。
	桜の名所（石割桜、米内の桜、小岩井の一本桜、姫神の桜）のPRや外国からの観光客を増加させる対策（看板や宿泊施設）をしてほしい。
	盛岡駅東口に人口地盤をつくり大通り方面まで地下道を設置する。さんさや鬼剣舞等民族芸能をバリ島の如く多くの観光客を呼び込めるよう再構築する。
	駅前タクシー運転手の指導（観光ガイドできるように）や観光バスガイドを充実させ、市民の歴史や自然に対する考え方を変える。また、観光都市としての意識を市民全体が共有し、ボランティアガイドの育成を行う。市長以下観光に対する考えをしっかりと持つことが何より大切であり、観光地での研修も必要である。
	街角に案内人を配置。ガイドを育成する研修を行う。
	関東圏へのアクセスも便利商業施設も整い、レジャーも楽しめ、住みやすい。訪れたいと思ってもらえるように、三大麺、特に盛岡冷麺を全国的にPR（味比べ）するべきである。
	「市民一人ひとりが観光大使に。」転勤族の私は何度と無く盛岡の良さを感じることがある。今までその魅力を伝え、提供してきた地元の人々の営みがある。こういった活動や盛岡に住む人一人ひとりの気持ちを積極的にPRしていけばちょっと変わった観光案内もできるのでは。
	盛岡市内の各種施設や観光名所の案内標識について、外国語表記と目的地までの距離や方向を交えた誰にでもわかりやすい標識に改め、設置箇所も増設し、市内外から歩きやすく親切なまちという印象を持ってもらう。
	観光PRも不十分であり、観光協会が前面に出て、他都市の例を参考にした指導・教育が必要ではないか。
	市長が謳ってきた観光立市を前面に打ち出してほしい。観光客を受け入れる市民の対応、もてなし方に力をいれていきたい。特にタクシーの運転手の方々へのアプローチが重要。「盛岡人は暖かくて素晴らしい。」と言われる立ち居振る舞いについて、私たち多くの市民の心がけが大切。
	歴史と文化を大切に、眠っている資源（観光資源）を掘り起こそう。人を呼び込む活動をもっと活発に、宣伝活動が必要である。
	県と連携したアンテナショップの活用。
	盛岡の人間性（おもてなしの心、やさしさ）、まちが持っている豊かさ（自然、山、川の風景）、交通のアクセスが良い（新幹線、空港、高速道）、海の幸・山の幸が味わえる、日本酒の蔵元が多い（盛岡広域圏）、「退職後の人生は盛岡で」をアピール（本当に住みよい点をPR）。
	中津川の観光化を図る。
	宮沢賢治、石川啄木の観光コース化（周辺市町村と一体で）。
	恵まれた自然、歴史的建造物、様々な祭りを活用し、来盛客を増やせるようにしたい。
	盛岡城跡公園からの展望を妨げないまちづくり、観光と経済力のあるまちであることが必要。

●施策の柱 V 活力ある産業の振興

施策	内容
4	盛岡や三陸産の食材を生かした「名物，うまいもの」の開発。
	三大麺に続く食べ物で盛岡をPRしたい。
	行事や祭典をもう少し整理してほしい。盛岡らしさが失われていくようで淋しい。
	盛岡の3つの川を利用した水力発電や水上での冷風食堂施設，水上散歩橋などの観光を考えたい。
	温かいおもてなしの心にあふれているまちであることをPRする。
	多くの池や人工湖がある立地条件を活かし，「緑の湖水めぐり（高松の池→四十四田ダム→岩洞湖→綱取ダム→御所湖・温泉）」を設定してはどうか。是非訪ねてみたいと思わせる絶対的な対象，財政上難しいかもしれないが，例えば，盛岡のスカイツリーや城跡に威容を誇る不来方城の建築など。
	安全で，美しく豊かな自然，歴史と伝統に育まれたまち，温かな人情は全国に誇れる盛岡の財産。これに三大麺等の食，ILC等大規模プロジェクトの可能性等，将来とも夢あふれる盛岡の魅力を様々な場面で積極的に発信していく事が大切。
	商業都市としての魅力を拡大し，様々なイベントで集客を図る。
	岩手県は豊富な観光資源を持っているが，整備活用が他県に比べて劣っている。観光でも宿泊拠点となるように努めるべき。
	もっと優しいまちづくりが必要であり，細かい点に気配りがほしい。例を挙げると表示看板がわかりにくい。一つひとつ丁寧に発信し，おもてなしの心でPRしてほしい。
	地元の郷土芸能・観光の素晴らしさをPRする。
	自然災害も少なく，四季折々の風情を堪能できる風光明媚な地であり，人情味溢れたまちであることをPRする。
	観光バスをみかけない。観光資源を活かし盛岡の財源を豊かにし，社会保障の充実につなげてほしい。
	訪れたいと思われるためには，歴史，文化，観光拠点巡りが容易に出来るように方策を考えること（来訪者には極めて不便）。
	観光名所の整備，岩手公園を名称変更するだけでなく整備し（春は桜や紫陽花，夏はバラ，秋には〇〇というように），人々が集う場所にする。名産品も「1か所でのみ手に入る」とすると経済効果があるのでは。
	地域の特性を生かした産業，忘れられない味，国際化の進展に備えて市民の心構えを持つこと，元気な高齢者に活躍してもらうことやおもてなし等をしてもらうことを実現し，PRする。
	訪れたいと思われるには，盛岡駅等駅前に市内名所，施設の紹介とアクセス方法の掲示が必要。
	訪れたい，行ってみたい方に対しては，祭り，行事の充実，資源を生かした物産の振興，観光キャンペーンによる観光客の誘致と受入環境の整備，今ある魅力を知り，活かして発信していく必要がある。住んでみたい人々には受入態勢を整備していく必要がある。空家等の利活用を図るため，法整備を図ってほしい。
	盛岡の立地を生かした観光振興が市の財政健全化にも役立つのではないかと。商品だけの「盛岡ブランド」ではなく，来て見て楽しい，別の面のブランドづくりを進めては。例えば（先人，郷土食，古仏寺等の）市内ツアー，ボランティアガイドの養成，自転車ロードの拡充，修学旅行のコース作成（業者コンペ等により吟味），全国一を集めた祭り，高校生大会等が考えられる。

●施策の柱 V 活力ある産業の振興

施策	内容
4	税収が上がり、市民と公務員の意識改革が進めば、市民ニーズに応えられて、住み続けた いまちに変貌することは必然である。そのために、観光にオールシーズン最適な北東北の 国際交流拠点都市に発展させること（年間を通じて豊かな自然観光や食文化、盛岡の先 人、近隣に温泉宿泊施設が多数存在していること等をPR。盛岡から県内の観光地へ行け るモデルコースを設置して広域観光の拠点のイメージを国内外にPRする。東京オリ ンピック開催を視野に、ごみ集積所の改善をし、きれいな盛岡を目指す。）、盛岡動物公園 のPRに力を入れて、展示物内容の充実や植物園の新設、ポイント制度の導入等により、 誘客を図ることを提案する。また、市内で得た収入は、市内で支出してもらう「経済還 流」を心がけることが、みんなが住んでいける市勢発展の原点である。
	県外市外から来られた方には魅力的に映るかもしれないまだ掘り起こされていない県内各 地に眠っているご当地ものを発掘すべきである。表紙のキャラクター「モリィ」も初見、 わんこきょうだいのように周知徹底すべき。
5	希望をもって働ける仕事があること、活発な経済が行われていること、人口動向の推移を 先取りした行政対策が必要である。
	子どもたち、高齢者の方々が住みやすいまちづくり。そのために、子どもや高齢者の方に 携わる若者達が労働条件や環境的に意欲的に毎日を過ごせるような行政面でのバックアッ プが重要。
	働く場をつくるために、新たな企業誘致や新規産業の開拓促進等、経済の活発化が必要。
	空き家、空き地対策。若者が定着できる雇用の確保。
	他市町村や県外に就職を求めなくても良い種の産業の発展と雇用の充実を図る。
	安全安心な食糧生産と食品工業の連携を重視した経済施策、3次産業中心の産業振興に 1、2次を効果的に組み合わせた産業構造を確立する。働く場所の確保で人口問題の解決 に結びつける施策が大切。
	北東北拠点都市として政治経済の出先機関誘致や受入れ基盤の整備、恵まれた自然環境と 調和したまちづくりを行う。
	第二次産業の立地促進のための受け皿を整備し、事業活動したいまちとしてPRする。
	若者の定住にむけ大企業の生産工場を安い地価の場所に誘致する。
	企業誘致を推進するまちとしてPRする（震災にも強く、企業のリスクを分散する上でも 必要。）。
	経済面にも力点を置き、立地条件を活かした流通拠点としての企業誘致（工場ではなく事 業所）を積極的に行う。
	第2次産業など働く場所が少ない。
	行財政の健全化を見込むためには、企業の誘致と産業拡大が必要条件である。
	郊外の過疎化対策として工業団地化などの整備が必要。
	若い人達の働く場のあるまちにして、住み続けたいまちとしてPRする。
	経済活動が活発で雇用が生まれる、人々が集まるまちとしてPRする。
	「若者が定着し、活気あるまち盛岡」を目指す。地域の特性を活かした産業活動、若者が 定着し安定した雇用の場、労働環境の整備が課題。
	働く場所が少なく、人口が増加していないので、第3次産業だけでなく第2次産業も積極 的に誘致すべきである。

●施策の柱 V 活力ある産業の振興

施策	内容
5	事業活動に適した空間が多いことを知らせるべき。東西南北への交通の要であること、盛岡市が地図上のどこにあるのかについてのPRが必要。
	年代に偏らない施策が必要。高齢者には安寧，若者には仕事を。そのためにバリアフリーのまちづくりを進めること，保健福祉の充実，起業家や小規模事業者向けの税制や不動産面への優遇措置を講じてビジネスのしやすい環境を整えることが必要である。元気に活躍する現役世代を増やすことこそ若年層への好影響を与える施策。
	工業団地の拡大とものづくりのまちづくりの推進。
	若者の雇用促進に努める。
	企業誘致を強化し，人口を増やす事が第一。企業，人口が増加すれば活性化し，必然的に医療や教育，環境等が充実してくる。
	市有地，私有地を含めて遊休地の活用をPRし，積極的な企業誘致の推進を図り，地域の活性化に努め，魅力ある地域づくりを進めたい。
	2次産業の誘致や起業にも力を入れ，就業人口を増やしてほしい。
	交通の利便性をPRし，企業誘致を行い，若者の働く場所を提供する。また，盛岡の交通だけでなく県内，各地方からの交通の利便性にも参画し，盛岡に来れる体制になるよう発言していく。
	若者が定住するまちとしてPRする。
	まちづくりの前段として，人口の流出防止，集客力の増強のために，立地条件の確保が不可欠である。そこで，県北地方の山を平坦地にし，企業誘致や諸施設の建設に役立てる等，県北の開発に注力すること，国有地の代替を検討することを提案する。

●施策の柱 VI 環境との共生

施策	内容
1	第一に「きれいなまち」であること。建造物は勿論、路上にゴミが落ちていない、雑草が生えていないことが基本である。
	先祖の墓守をする人も少なくなるので、公共の共同墓地を作ってはどうか。
	歩行喫煙とポイ捨ての根絶、街の美化のため禁止条例を一刻も早く制定されることを要望する。
	路上のごみを無くす、道端の草刈り等、環境の整備に力を入れる。こうしたことを実現していくためにも、社会教育が大切になる。
	道路にごみがない、山、川、景観は最高、美しいまちであることをPRする。
2	京都のように高層ビルを禁止し、川を活かしたまちづくりなど、街並みと自然をPRする。
	自然が豊富なまちなので、落ち着いてゆっくり生活できる特徴を活かす事が大切。
	中津川にオイカワを放流する。
	天賦の自然のみでなく市街地にも豊かな自然があることをPRする。
	内部環境（文化・風土・環境のきれいさ）の強みを活かしたまちづくりを目指すべき。基本インフラとして整備すべきもの以外の分野は集中と選択が必要。それが個性、特徴に繋がる。盛岡の魅力は、程よく都会で、緑や水がきれいで食べ物が美味しく住みやすいまちであること。人造物と自然の調和がポイントとなる。市民の教養を培養する施策も必要。盛岡のよさや幸せのカタチを住民参画型のワークショップで議論してもよい。
	自然環境、生活環境が優れ、快適な暮らしが実現できるまちとしてPRする。
	自然と街並みが調和したまちをこれからも維持していけるよう、環境を考えたまちづくりをアピールしてほしい。
	美しい自然と近代的な都市機能が調和したまちづくりを皆の力で推し進めていかなければならない。
	北の小京都としての自然と落ち着きのある都市であることをPRする。
	市民を取り込みながら、盛岡の自然、街並みの景観、歴史等の積極的PRを多様に行う。
	水と自然を売り物に、目に見えないサービスの提供が求められる（盛岡市のシンボルを作りたい）。
	中津川に鮭が上ってくる事をもっと大々的にアピールし、市の清潔なイメージを作る。
	四季の移ろいが心に爽やかなまち、人も鮭も住みよい水のまち、暖かい心のまち（ハートが強くつながる）、そば・鉄瓶・染物等、今も南部の歴史が息づくまちであることをPRする。
	自然環境の豊かさと経済的・商業的発展が共存できるのが盛岡市の魅力だと思う。
	四季折々の美しい自然、心豊かで情の深い人柄をPRする。
	水と緑等の自然を大切に行政と市民の協働によるまちづくりを積極的にPRしていくべきである。
	自然環境を維持し、市内各所に緑があふれるような街並みの整備がなされた盛岡市にしなければならない。
	自然の醸し出すゆったりとした雰囲気、盛岡の景観をを保つことができれば住み続けたい、住んでみたいと思えるまちだと自信をもっていえる。

●施策の柱 VI 環境との共生

施策	内容
2	広域的観点から、交通の拠点としての利便性，教育や文化水準の高さ，自然環境を前面に出し，「人間らしく落ち着いた心穏やかな生活ができるまち」としての魅力をPRする。
	清流と花壇のある街並み，背後に見える岩手山（開運橋から）をPRする。
	川と山に囲まれたまちもりおか，そのコンセプトに基づいたまちづくりに今後ともご尽力願いたい。
	盛岡は水と緑の自然豊かなまちである。人間関係も優しく環境重視のまちづくりをPRしてもらいたい。
	豊かな自然を楽しむまちづくり（高松の池から玉山地区への遊歩道，サイクリング可能な遊歩道の整備等）。
	潤いやゆとりが持て快適に暮らせるまち（豊かな自然環境や人情に恵まれ，食文化も多様），訪れたいまち（四季折々のイベントや歴史，文化）としてPRする。
	山と川に恵まれた盛岡は環境に優れたすみやすい地。この優位制を大いに生かし自然と共栄できる街づくりや人づくり（学園都市）を期待。
	町内を流れる川，橋，橋の上から眺める山々，透き通る水，最高の安らぎのまちである。
3	エネルギー自給率が20%しかないので，自然エネルギーを強化したまちづくりを目指す。
	自然エネルギーを有効利用していることも内外に示せるまち。
	働きやすい環境を作るとともに，新卒の若い世代がずっと住めるような産業の充実や新しい環境にやさしいエネルギーなどを考えなくてはならない。
	エネルギーの整備充実。
	再生可能エネルギーを活用した地球に優しい技術の開発と実用化を進め，住みやすいまちに。
	盛岡の3つの川を利用した水力発電や水上での冷風食堂施設，水上散歩橋などの観光を考えたい。

●施策の柱 VII 快適な都市機能

施策	内容
1	空き家、空き地対策。
	素敵なまちづくりと希望を持てる農業振興にもっと力を注ぐべきである。太田は農業振興地域に位置づけているが、地価が安いと、土地を担保に農業施設に投資したくとも出来ない状態なので、市民が安い土地を買って住宅を建て、住める地域とし、理想の地域づくりのモデルにしてほしい。
	市街地内で医療、買い物等を満足して行えるコンパクトなまちを期待する。
	盛岡のまちづくりは方向性が見えない。盛岡城跡公園を整備したり歴史文化館を整備する一方で、近隣の超高層マンションの建設を許可したり。岩手山の眺望や川筋を重視しながらマンション建設許可をする。このまま行けば盛岡は雑居的なまちになってしまう。「もりおかしさ」を再び考え、今後の方向性を再検討してほしい。
	東北各都市に比べ保健医療の水準が高いことや中心街やその周辺の商業施設、公共交通機関の整備状況を踏まえて「コンパクトで住みやすいまちづくり」をPRする。
	地価の安い土地を市街地で活用することにより、低所得者層も住宅を建てることができ、過疎化が解消される。
	地域格差の無い、中心部に集中しない全体が住みやすいまちづくり、若者が地元を離れないような地域住環境の整備が必要である。現在のままでは高齢者の地域がどんどん多くなってしまう。若者にとって魅力的な地域づくりをお願いしたい。
2	50年後を見据えた街並みデザイン（住宅・建造物のデザイン統一。広告看板の美化等）、中央通りをシャゼリゼにする等、街としての魅力づくり（ヨーロッパ古都のように瓦、白壁で統一）を行う。
	京都のように高層ビルを禁止し、川を活かしたまちづくり等、街並みと自然をPRする。
	山・川・緑とマッチした都市景観の保持（街中から岩手山が見えるように）。
	内部環境（文化・風土・環境のきれいさ）の強みを活かしたまちづくりをめざすべき。基本インフラとして整備すべきもの以外の分野は集中と選択が必要。それが個性、特徴に繋がる。盛岡の魅力は、程よく都会で、緑や水がきれいで食べ物が美味しく住みやすいまちであること。人造物と自然の調和がポイントとなる。市民の教養を培養する施策も必要。盛岡のよさや幸せのカタチを住民参画型のワークショップで議論してもよい。
	川のあるきれいな城下町、古い街並の景観を守る努力が必要。「寂れたもの＝活性化させる」ではなく寂れたものの中に田舎のよさを見い出すことは出来ないか、不便なことが却って良いことだと思う。
	北の小京都としての自然と落ち着きのある都市であることをPR。
	バスセンター等、昭和の雰囲気が残っている場所は将来残し、PRしたほうがよい。
	普段ぐらしが美しいまちとしてPRする。
	市民を取り込みながら、盛岡の自然、街並みの景観、歴史等の積極的PRを多様に行う。
	中心市街地や旧街並み等、今ある盛岡の良いところを大事にして特長付けていくことも大切である。
	古い人たちの残した尊いものへの心配りと配慮を持ち、古きよきものを大事に大切にしている街並みを残すことが必要。
	今ある古きよき街並みを壊さず整備して、暮らしやすいまちとしてPRする。
	城下町としての落ち着いた景観やこれまで通りの自然環境に配慮をしたほうが良い。

●施策の柱 VII 快適な都市機能

施策	内容
2	自然の醸し出すゆったりとした雰囲気，盛岡の景観をを保つことができれば住み続けたい，住んでみたいと思えるまちだと自信をもっていえる。
	観光面では，自然環境とまち並みが調和するために，思い切って美観地区等を制定して再整備を図る必要がある。
	盛岡城跡公園からの展望を妨げないまちづくりが必要。
	住んでみて，歩いてみてほっとする街並みの保全，育成。マンションの建設制限，景観の保全を行う。
	貴重な建築物や街並みを開発という名のもとに壊さず，歴史あるまちづくりを期待。
	都市機能の充実に力点を置くべきである。滝沢市との協力関係を一層密にする事が大切。盛岡市は歴史・自然を生かした景観都市として，地道にその面の充実が求められる。
	盛岡駅から岩手山が見えないので高層マンションやビルは高さ制限を設けてほしい。
	景観に恵まれた美しい地方都市であることを自信を持ってPRすること。
	景観を考える上で重要だと思われるのは，信号機や電柱。特に電柱は景観を損ねるものだと思うので，何とかしてほしい。
	盛岡の魅力は旧市街地に多くあると思う人が大部分を占める。この地域は少子高齢化が進行する中で元気の無い街になってしまう事が懸念される。歴史・文化・水・緑といったPRポイントはそこで暮らす人達の生き生きとした姿があつてこそであり，実現に向けた施策を実施し，その成果をPRすることも必要。
	城下町と近郊農村の二つの側面を活かしつつ，かつ有機的に結合されなければならない。四季折々の風情が楽しめ，人々が安心して暮らせるまちづくりを進めてほしい。
	自然だけがあるというのではなく，近代的な物（建）との調和があると良い。人口密集地のような地域も無く，綺麗な清い風が吹き抜けるところが住みたくなるところ。ただし，足が無い（交通バス）のは心配。
	昔からある街並みを活かしたもてなしの心があれば。そのような機会を作れる事業を展開してほしい。
3	中津川沿いの静かな景観と連なる近代的ビルを併せて表示する事で静かさと便利さをアピールする。
	南部片富士と姫神山を遠望するバランスのとれた高屋建築をすること。
	除雪対策を万全にし，年をとってからでも盛岡に住み続けられるように。
	降雪地なので冬の除雪を迅速に行うなど，雪に強いまちをアピールしたらよい。
	春から秋は快適だが問題は冬季。除雪がスムーズにできるよう雪捨て場の確保，整備，道路の安全性が向上すれば「住み続けたい，訪れたい，住んでみたい，事業活動したい」まちになると思う。
	若い人が，盛岡に住み続けるには働く場所の確保が重要である。また，つぎはぎだらけの舗装道路を改良し，上田交差点の地下道は高齢者が通行するのが大変なので，工夫がほしい。
	冬の寒さへの対策が必要。
	観光客誘致のためには，街並み再整備や本町通の道路拡幅等道路網の整備を図り，市内を安心して散策できる道路づくりを行うことが急務である。

●施策の柱 VII 快適な都市機能

施策	内容
3	道路の整備，災害後の早期復旧，冬季間中の除排雪等，市の環境整備が重要。そこから街並みへの整備へと進んでいく。
	幹線道路に通じる道路整備が良ければ事業活動が盛んになり，色々な税が入ってくる。
	標識を整備する。
	冬期の雪対策，道路環境に力を入れていることをPRする。
	市街地道路の補修，改善が必要。
	盛岡の除雪は他の市町村に比べ「粗末・いい加減・遅い」の声を良く聞く。改善していただきたい。
	活動の中心が周辺部に移り，中心部に住む住民にとって（特に交通手段の無い住民にとって）住みづらいまちになっていくと思う。また，マンションが増え，中心部の一般住居に住む住民にとっては，景観のよさが失われてきている。
4	ショッピングや地元グルメ，公園がたくさんあり住むのが楽しくなりそうなまちとしてPRする。
	旧南部藩時代の町名を残して標示し，お城復元活動（一人1,000円募金）を有志を募って行う。
	観光の拠点として盛岡城を再現し，若者の定住に向け大企業の生産工場を安い地価の場所に誘致する。
	自然豊かな公園にもっと手を加え，訪れてくれた人々に自慢できるような公園にしてほしい。
	河川沿いを整備して閑静で（庵のある）散策の楽しめるまちづくりの工夫を考えていただきたい。
	全ての道路にごみを絶対に捨てさせない方法で美しいまちに，花の咲く場所を多く確保して人々にみせる。
	防犯面も含め多くの市民が長く住み続けるまちとなるため，緑と都市整備が両立した住みやすいまちをPRする。
	城下町をイメージできるよう，緑の中に文化や歴史が残り，近代化が溶け込んでいるまちにしてほしい。
	子ども，高齢者ともに安全で安心して活動出来るスポーツ公園をコミュニティ単位に設置する。
	城下町由来の地名等を復活し，標識も整備する。
5	水と緑の自然が豊かで上下水道が整備され，医療福祉，教育が充実，交通の要で便利なまちであることをPRする。
	日本一おいしい水道水と空気は誇れる財産である。
	上下水道などの住環境の整備が整っていることをPRする。
6	人が住むための根幹である部分（下水道）を整備することが魅力あるまちの大前提である。

●施策の柱 VII 快適な都市機能

施策	内容
6	公共下水道の普及速度を速めるべき。
	生活環境等の公共上下水道の普及率のアップに取り組んでほしい。
7	美しい自然と近代的な都市機能が調和したまちづくりを皆の力で推し進めていかなければならない。
	P Rではなくもっと積極的な住宅都市基盤整備を行うべき、良質な住宅地は市外のほうが現状では上のような所もある。
	盛岡駅東口に人口地盤をつくり大通り方面まで地下道を設置する。さんさや鬼剣舞等民族芸能をバリ島の如く多くの観光客を呼び込めるよう再構築する。
	新興住宅地について、街並みの景観を考え規制するなど、ゆとりをもったまちづくりを望む。
	盛南開発だけではなく、北（玉山）にも目を向けた発展が必要。
8	現状中心市街地の事業活動は厳しいので、発展を続ける盛南新都市の魅力をP Rしたらどうか。街並みも街区化され、交通や地域住環境の開発整備が進み、大型の商業施設が進出し、人口も増加傾向で、地域住民はもとより多くの市民が関係施設に立ち寄るなど一段と生活しやすい地域環境となっている。
	車の少ない安全に歩けるまちとしてP Rする。
	ガイドによる効果的なP R，口伝えを行い，仏跡や産業，県立博物館等は発着できて行きやすいことが大切。先人記念館や子ども科学館など区切らずに，バスでの移動がスムーズに行けたら便利。
	交通の便もよいまちとしてP Rする。
	少子高齢化社会に対応した暮らしやすいまち。安価で利用しやすい公共交通が整い，歴史文化に根ざしたまち。それらの姿を健全な財政で実現していくまちであってほしい。
	高齢化に合わせて，バスがどこでも走っているようにすべき。高齢者のためにもでんでんむしバスをもっと郊外まで行けるようにする。
	盛岡駅前の整備。でんでんむしのような乗りやすいバス路線を増やす。
	交通機関は小型バスでよいのでシャトル方式で休みなしに巡回，乗り放題に。
	住みよいまちとは，買い物の便，医療の便，教育環境，短期居住者がとけこみ易い等，生活の便が整っており，地域の安全が守られているまちである。自分たちの生活は，自分たちで作り守るという自助意識を持ち，盛岡の歴史，出身先人，周辺名所へのアクセスの便，教育，安全，水，御所ダム・四十四田ダム・岩洞湖の活用といった魅力をP Rする。
	道路の整備は10年以上前のものを現在行っているのでは遅すぎる。
	中心市街地に若者が集まるまちは将来的にも強い。公共交通機関が有機的に機能していくまちをつくってほしい。
	豊かな自然があり，歴史や文化が息づくまちであり，幹線交通の便がよいまちである。
	市内（川徳前～公園下）間の工事期間が長すぎる。
	バスで市内を回るのに目玉がない。盛岡駅を中心に，駅前の交通の整備や駅西側の活用等，変わっていくべきである。
	市内だけではなく小岩井，八幡平周辺もあわせた広域の観光P Rを，交通の利便性とあわせて全国，海外に行っていくべき。

●施策の柱 VII 快適な都市機能

施策	内容
8	観光については、駅構内に観光案内所を設けてほしい。事業活動については、駅前で安価な事務所の貸し出しを行い、交通手段については、城跡や博物館、旧中心街等散在しているので広島や熊本のように路面電車を走らせて移動しやすくする。
	観光資源を結ぶ交通網の整備が必要。
	公共交通（特に飛行機乗り入れ本数拡充と料金）の充実させ、バスを一回り小さくして便数を増やす。
	広域的観点から、交通の拠点としての利便、教育や文化水準の高さ、自然環境を前面に出し、「人間らしく落ち着いた心穏やかな生活ができるまち」としての魅力をPRする。
	盛岡駅前の拡大。
	道路網の整備と路面電車の走行、北上川と中津川を活かしたゆったり感のあるまちを目指す。
	郊外地域の交通対策（高齢者、弱者）、子どもを産み育てたくなる環境整備が必要。
	街の中は、道路を広くし無料駐車場があると良い。大型店は高齢では行けず、不便である。大通りの活性化が必要。郊外より街に入るバスは駐車場を増やし、様々な所から乗り降りできるようにしてほしい。
	生活の基盤である環境が他に比べて良いこと、交通の結接点としての新幹線、高速道路を利用することで首都圏からの移動時間が短いこと等をPRする。
	「車がなくては生活できないなんて不便」と引っ越してきた人はいう。そこで他都市との差別化のため、LRTの検討も含め、電車やバスの利便性をまちづくりの一環として高めていくべきである。田舎なのに便利、と思ってもらえることは企業にも旅行者にも大きなセールスポイントになる。
	バス等の公共交通でもわかりやすい案内等について、日々研究すること。
	道路事情及び信号待ちが多く、市内道路整備の改善、バイパスなどの立体交差化を望みます。
	観光地へのアクセスを更に便利に。
	高齢者が住みやすい交通網の整備（居住エリアからマイクロバスのような車両運行）が必要。

●施策の柱 VIII 信頼される質の高い行政

施策	内容
1	大企業にお金が出るのを防ぐ、箱物に税金を使わない、借金財政の改善等が必要。
	市の財政負担の軽減等、考えずにやるべきことをしっかりわきまえてやるべき。市と市議会が一体化して推進していくことを期待。
	経済活動の活発化、市の財政の健全化が必須。他との差別化が顕著な産業活動があれば、元気な盛岡になる。老人のための産業等、少しでも財政が上向く方法を考えなければならない。
	税金の負担を軽くすること。
	本庁舎の駐車場は狭く、遠方者は憂鬱である。駐車場が少なく、有料では不便。
	市の財政を立て直すこと。計画的に予算を組み立てる。
2	住んで安心、やすらぎ、活力が感じられるまちづくりをしてほしい。
	地域の特色を生かした拠点づくりをし、市中心のみならず、市全体に活力のみなぎる、均衡のあるまちづくりを進めるべきである。玉山総合事務所へ農林部を入れれば、均衡がとれる。
	まちづくりを考えたとき、玉山地区から都南と広く一体感を持った、広域の視点が必要。盛岡市の全体像が見える情報提供が必要であり、そのことが自分たちの地域がどのように変化していけば良いかを考える機会になるのではないかと。「マンションと居酒屋のまち盛岡」にならないでほしい。
	市民誰もが「住み続けたい」と思うようなまちづくりを進める。
	市の行政が市民に対して公平か検証する必要がある（許認可事務）。
	岩手県を中心都市としての活力あるまちづくり。
3	盛岡の魅力は、程よく都会で、緑や水がきれいで食べ物が美味しく住みやすいまちであること。人造物と自然の調和がポイントとなる。市民の教養を培養する施策も必要。盛岡のよさや幸せのカタチを住民参画型のワークショップで議論してもよい。
	安全で、美しく豊かな自然、歴史と伝統に育まれたまち、温かな人情は全国に誇れる盛岡の財産。これに三大麺等の食、I L C等大規模プロジェクトの可能性等、将来とも夢あふれる盛岡の魅力を様々な場面で積極的に発信していく事が大切。
	各業界からPRのCMを募集し、それをタイムリーに発信、専門セクションを設置することも重要。
	行政と市民の協働によるまちづくりには大賛成。町内会でも一地区のみのことではなく、連携を図り、協力と提言が必要。
	盛岡市シンボルの確立。
	水と緑等の自然とを大切に行政と市民の協働によるまちづくりを積極的にPRしていくべきである。
	安心して住み続けられる組織体制づくりが重要。そのためには行政側と市民との連携が必要であるが、現在の盛岡市の取組は具体策が希薄である。今後においては高齢者の提言も積極的に取り入れ、画期的な取組についての検討、市民の積極的な参加の具体策についてもお聞き入れ願いたい。
	街並みを維持しつつ、中心市街地の活性化と住環境・道路網の整備を進め、市民等の協働のまちづくりを本格化させる。

●施策の柱 Ⅷ 信頼される質の高い行政

施策	内容
3	市民との協働を唱えているが、本来は行政がやるべきことを市民に押し付けず、もっと積極的に市の発展のため取り組んでほしい。形式的な市民との懇談会は意味がないと考える。「市はここまでやるから後の部分は住民でやってほしい」など…。
	大規模災害への対応が早く行われ、安心して暮らせるまちづくりが行政と市民の協働によって行われるような組織づくりが更に必要。
	市全体が安心安全な生活を営み、常に市全体が明るく、豊かなまちづくりに勤しんでいることをPR。加えて市政運営方針に唱っている事項を広く深く実践していること、将来の夢、希望を持ち得ることをPR。
	市の考え、市長の考えを明確に発信していることが重要。
	盛岡の北部（玉山地区や松園地区）が納得するような施策を。また、地域協働に力を入れている地区も出てきているので、市の一層の公助を。
	もっと盛岡のよさ、盛岡らしさ、こんな盛岡市へといった想いを。子どもから大人まで魅力をアピールできるような、みんなに分かってもらえる事業の展開が必要。
	もっと市民・各地域の声や意見を反映し、まちづくりの計画を練る取組が必要。
	市民の生活満足度を亢進することが何より大切である。そのためには、住民との合意形成を経た上で、市としてのTop priorityを見定め、その実現を目指す方向性を定めることがより良い「まちづくり」の現実的方策だと考える。
	盛岡にしかないものをPR（さんさ踊り、ビッグブルズ、グルージャ盛岡）、盛岡を紹介する雑誌等の発行（事業活動や居住に視点を向けたもの）。
	住み続けたい、住んでみたいと思われるには、今の盛岡の良さをアピールするのも大切だが将来のため、こういう計画、まちづくりを目指しているという市の考えをPRし、知ってもらうことが必要。訪れたいと思われるには、ただ紹介しただけでは魅力を伝えきれない。体験することが一番ではないか。体験型施設やイベントの紹介、IT化の時代なので盛岡市のアプリを作成、スマートフォンで情報を発信するのも良い。
	排他的ではない「welcome」状態であることをどのようにか上手く表現したい。じんわりと盛岡のよさが浸透していくようなPR法を考えてほしい。
	県外から盛岡市に移り住んだ人達の意見、意向を聞きだし、PRする。
	市民活動が市民全体に知れ渡っていないと思う。もっと市民参加が増えるようなPRが必要。
4	市役所職員の不正事案が多い。
	行政は小さな問題も一項目ごとに解決して、絶対的な発展となるよう取り組んでいただきたい。
	市職員の地域活動参加の促進。
	共通する業務について各部の連携が取れていない。役所の縦割行政を改善し、風通しを良くしていけばまちづくりにいらぬ労力を使わず推進できる。
5	各支所の機能の拡大を図ってほしい。
6	現在の体制を地方自治法上の地域自治区とし、本庁に集中する権限を区の事務所に委譲し、住民に身近な行政はより住民に近いところで実施する体制にするべき（現在の出張所を区の事務所とし、権限委譲、コミュニティ組織やNPO、企業等とも協働、連携する。組織のフラット化）。
	周辺市町村との連携をとる。滝沢市との協力関係を一層密にする事が大切。

●その他（市政関連、アンケートに関する意見など）

内容
まずは魅力を作るべき。人には一つのみの魅力ではなく、多様な全体的にバランスの良い魅力が必要。
冬が厳しく長いので、生活力を向上できる施策が必要。
自然や伝統が豊かである一方、新しい取組にも積極的であることが重要。
1万人規模の集会を誘致できるよう利便性が良いところにアピオ級の会場を整備する。
何事にもすばやい対応が出来る行政をお願いしたい。すぐやる課の新設を望む。
情緒豊かな盛岡を具体的にPR。PR方法について、他から学んで実践していく。
10年後は岩手医大が矢巾町に移転する為、保健医療、教育文化でも東北最下位となり、生活環境が悪くなると思う。人口問題も悪くなると思うので早期に矢巾町との合併を進める。矢巾町との合併無くして盛岡市の将来の発展はない。
岩手医大の跡地は大型住宅団地にならないよう身近な人が集まることを考えたい。
隣人同士に助け合いがある明るい盛岡市をPRする。
一人ひとりの市民が満足感を感じるまちに。
まちを歩いて楽しめるようになってほしい。他県の人に、何かひとつアピールできるものを取り組んでほしい。
市議会議員の掲げた内容が実行できればPRになる。
魅力をPRする材料が減少し、人間関係も希薄になり、この状況ではPR不可。「人の輪」が第一歩である。
盛岡は寒さを我慢すれば自然豊かで食べ物もおいしい、心休まる良いところとよく耳にするので、こういうところを土台として自然と人々が集まる都市をめざしてはどうか。
市行政には「ホテル経営的」な明るく楽しいサービス行政をしてもらいたい。行政サービスのマンネリ化を避け、変化を。
最近職員の対応が迅速で丁寧で、非常に好感が持てます。
陸中海岸と八幡平との結びつきを深める交通整備。
雫石町と合併。
盛岡の売りである優しく温かい人情の周知、PR。人情味が感じられる地域であること。
地区の皆さん（多くは高齢者）は、自分の持っている機能を訓練し、穏やかに過ごしたいと願っており、地区での活動により、元気になったり、この地区に住み続けたいと思ってもらえている。若い人たちにも、その活動の輪は広がっており、住み続けたいと思える地区である。
地域格差の無い、中心部に集中しない全体が住みやすいまちづくり、若者が地元を離れないような地域住環境の整備が必要である。現在のままでは高齢者の地域がどんどん多くなってしまう。若者にとって魅力的な地域づくりをお願いしたい。
市長が行政として将来像をどうするか、どうしたいかを、理想をいうのではなく、それに向けた施策行動を積極的に目に見えるかたちで行うことが必要。
おもてなしの心を持って地域の方々が支えあって、幸せな生活を送れることを望んでいる。やる気・元気・根気。
経済や利便性等も大切だが、絆や結等の人間性を育み、住む人も来る人も和めるようなまちでありたい。

●その他（市政関連、アンケートに関する意見など）

内容
「都市の通信簿・主要35都市を採点する」（岩中祥史）より抜粋…盛岡市「かわいらしい町」こじんまりした造りが猥雑さを排除。
広域合併を再検討し、北東北の拠点作り。
議会議員定数の削減と併せ、活動費等の適正化による合理化の推進。
県の中央に位置する市として、都会にはない緑，人柄の温かさ，地域活動の良さ，周辺の方々には県の中で一番の生活利便性をアピールすると良い。
日本一の何かを作ることが集客には大事。
沿岸と盛岡がもっと短期間で行き来できるルート，方法を示す事ができれば，大きなアピールポイントになる。
余暇，娯楽を楽しめる施設の誘致や設備投資（民間の活用）。
自分たちが本気で市民のために考えたら答えはわかるのでは。
盛岡は観光やイベントなどの「非日常」を楽しむまちではなく「日常」のまちである。ふと目にする景色や，人々のたたずまい，まちなかの喫茶店や小さな居酒屋等，「日常」の居心地の良さを無意識に感じられるまちである。質の高い日常を小細工で壊さないまちづくりをお願いしたい。